

2025年 カトリック大阪高松大司教区

平和月間

報告集

平和月間 2025 大阪高松大司教区



希望と平和の巡礼者となろう

～苦しむ人、悲しむ人とともに歩む道～

Let's be Pilgrims of Hope and Peace

-A path to walk with people who suffer and grieve-



「平和月間行事、ご苦労さま」のご挨拶

大阪高松大司教 前田万葉 枢機卿

「平和月間」中のさまざまな活動、ありがとうございました。今年から始まった教区平和月間(7月・8月)は、被爆・終戦80年ということもあり、長く広く平和行事(祈り・考え・活動)が展開されました。そして、聖年にふさわしく「希望と平和の巡礼者となろう」の意気込みを感じました。新教皇レオ14世の「あなた方に平和があるように。・・・この挨拶が皆さんの心に、皆さんの家庭に、すべての人に、すべての民族に、すべての地に届きますように。あなた方に平和があるように」の声が聞こえてくるような気がいたします。

シノドスと聖年を生きる信仰者として、「共に歩む希望の巡礼者＝希望の使徒」となりましょう。

カトリック大阪高松教区報(2025年10月)より転載

「平和を紡ぐ旅 -希望を携えて-」 戦後 80 年司教団メッセージ



平和を望むすべての皆様、若者の皆様へ

はじめに

今年、わたしたちは戦後 80 年を迎えました。この節目の年にあたり、あらためていのちを奪われた人々、さまざまなかたちで尊厳を侵害された人々、また破壊された自然環境を心に留め、祈りをささげます。人の生涯と同じほどの年月を経て、わたしたちは今、人間の尊厳を大切にするのだという思いを、平和を実現しようという願いを、どのように次の世代へと受け渡していくのでしょうか。25 年に一度カトリック教会で祝われる聖年を迎えた今年、平和な世界を造る希望をもって皆様と、とくに若者の皆様と、ともに歩みを進めていきたいと願っています。

戦後 80 年を経て

2024 年 10 月に日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)がノーベル平和賞を受賞しました。「核兵器は極めて非人道的な殺りく兵器であり人類とは共存させてはならない、すみやかに廃絶しなければならない」。受賞に際し行った演説で代表委員の田中熙巳氏が語ったことばは世界の人々の心に届き、核廃絶について考えるきっかけとなったことでしょう。そのことばには、80 年にわたって語り続けてこられた重みがありました。

あの戦争を経験した多くの方が、日本でも、世界でも、80 年の間その経験を語り伝え、平和のために行動してこられたのです。

80 年が経過した今、実際に戦争を経験した人は非常に少なくなってきました。だからこそ、わたしたちは歴史的事実に向き合い、学び、記憶にとどめ、次世代に伝え、平和のために生かしていかなければなりません。

教皇フランシスコは 2019 年広島にて次のようにいわれました。「思い出し、ともに歩み、守る。この三つは倫理的命令です。これらは、まさにここ広島において、よりいっそう強く、より普遍的な意味をもちます。この三つには、平和となる道を切り開く力があります。ですから、現在と将来の世代に、ここで起きた出来事の記憶を失わせてはなりません」。

この意味で、若者の皆様が広島や長崎、そして沖縄に、巡礼や平和学習の旅をなさるのはとても大切な、意義のあることです。

わたしたちはアジア・太平洋戦争以前から、日清・日露戦争や植民地支配を含むさまざまな行為によって、日本が近隣諸国に対し多大な苦しみを与えてきたことを忘れてはなりません。80 年前、戦争終結に至る歴史の流れの中で、カトリック教会が平和の実現に求められる役割を十分に果たせなかった側面があります。明治以降、日本国が天皇を中心とした国家体制を整える中で、カトリック教会は忠君愛国の姿勢を示そうと苦心しました。その過程で、正戦論を用いて日本の戦争を正当化し、支持する立場を取ったのです。こうした過去を真摯に受け止め、回心し、次世代を担う人々とともに平和への歩みを進めていきたいと思えます。

世界の今

多くの市民による 80 年間の平和を目指す取り組みに並行して、国際連合とその加盟国は歩みを続けてきました。しかし平和を希求する国連憲章その他さまざまな規範は都合よく解釈され、また無視されることによって、世界は今、非道な戦争を目の当たりにしています。ウクライナとロシア、パレスチナとイスラエルをはじめとする中東、またミャンマーやアフリカ諸国でも、日々、多くの人々が殺され、目を覆いたくなる惨状が続いています。戦争は、人道的介入、予防、防衛などを建前にし、正義の名のもとに行われます。しかしそれらは自らを正当化するための拡大解釈であって、その結果多くの民間人が被害に遭い、環境が破壊され、さまざまなリスクが拡大するのです(回勅『兄弟の皆さん』258 参照)。

さらに、実際に戦闘行為を行っている国以外にも、戦争にならないように、また戦争になったときのために、軍備を強化する国が増えています。日本も同じで、日本国憲法9条により従来「できない」とされてきた集団的自衛権の行使容認、他国領土を攻撃できる長射程ミサイルの配備や武器輸出の解禁、自衛隊基地の新設、防衛費の大幅増など、国是としてきた平和主義がかすんでいます。

沖縄島をはじめ南西諸島においては、「防衛」の名のもと、次々とミサイル部隊が配備されています。80 年前の沖縄戦では、9 万 4 千人余りの一般住民を含む、20 万を超える人のいのちが奪われました。沖縄の人々は、その恐ろしい戦争の記憶、そして戦後の米軍基地に関連するさまざまな暴力事件に苦しみながらも、あくまで非暴力による平和アピールを続けています。戦争を二度と繰り返さないように、性暴力を含む基地由来の被害が二度と起こらないように、そう叫び続けているにもかかわらず、今また、ミサイル基地等が目の前に作られているのです。沖縄の年配のかたがたの間には、「戦争の準備をしている」「戦争前と同じ歩みをしている」、そうした声が聞かれます。

戦争そのものの恐ろしさ、罪深さは、多くの人にとって明らかですが、戦争へと人々を導いた日常における思想や価値観の植えつけが、知らぬ間に世論を戦争に向けて突き進むものへと変えていくことを、80 年前の経験から学ばねばなりません。今の日本は、果たして平和への道を進んでいるのでしょうか。

核兵器の廃絶に向けて

教皇フランシスコは 2019 年広島で「確信をもって、あらためて申し上げます。戦争のために原子力を使用することは、現代においては、これまで以上に犯罪とされます。人類とその尊厳に反するだけでなく、わたしたちの共通の家の未来におけるあらゆる可能性に反する犯罪です。原子力の戦争目的の使用は、倫理に反します。核兵器の所有は、それ自体が倫理に反しています」といわれました。

日本被団協のノーベル平和賞受賞は、世界が核兵器使用の脅威の中で「核抑止」から抜け出し、核兵器廃絶に向かうための大きな一歩です。

核兵器は、爆発時だけでなく、その後の長い時間にわたる健康被害や社会的差別、そして環境破壊を引き起こすことを、被爆国に生きるわたしたちは経験してきました。日本の司教団は戦後 50 年にあたって、強い決意のうちに宣言しました。

「核兵器の破壊的な力を体験したわたしたちには、その貴重な証人として、核兵器の廃絶を訴え続けていかなければならない責任があります」(「平和への決意 戦後五十年にあたって」)。

核兵器廃絶に向けた取り組みは、広島・長崎と米国の司教たちとのパートナーシップによるネットワークなどにおいて広がりを見せています。今回の受賞が、核兵器のない世界に向けた希望の灯となるように祈るとともに、世界と日本政府がこの「時のしるし」を深く心に留め、一刻も早く核兵器禁止条約の署名・批准に向けて行動することを強く求めます。

真の平和とは

聖書が語る「平和(シャローム)」は、もともと「欠けたところのない状態」という意味をもつことばです。その意味で、平和は、単に戦争や争いがない状態なのではなく、この世界が神の前に欠けたところのない状態、すなわち神がきわめてよいものとして造られたこの世界のすべてが、それぞれ尊重され、調和のうちにある状態のことだといえるでしょう。ですから、平和のために働こうとするとき、わたしたち自身の神との関係、人々との関係、自然環境との関係を振り返り、神の前に望ましい関係であろうと回心し、対話することなしには前に進めません。平和とは、核兵器や武力の均衡によってもたらされるものではないのです。

希望をともにして歩む

今年、カトリック教会は聖年を祝っています。これは、旧約聖書のレビ記(25章10節参照)にある「ヨベルの年」にちなんだ行事です。レビ記によるとこの年は、畑を休ませ、貧困などの理由により売却を余儀なくされた土地が返却され、雇い人となった同胞が解放され、負債が免除されたりする解放の年で、50年に一度巡ってきます。カトリック教会では、25年に一度聖年を実施し、神の前にすべての人が尊い存在であることを再確認し、権利を侵害されているならばその状態を解消し、搾取されているならばそれを返済し、負債から解放されるよう働きかけています。まさに、欠けてしまった状態から、本来の状態に戻す、平和を実現するための年といえるでしょう。

前教皇フランシスコは、今年の聖年のテーマを「希望の巡礼者」とし、「聖年が、すべての人にとって、希望を取り戻す機会となりますように」と招いています。

また、新教皇レオ十四世は最初の祝福の際、「あなたがたに平和があるように……。この平和のあいさつが皆さんの心に入りますように。皆さんの家庭に、どこにいたとしてもすべての人に、すべての民族に、すべての地に届きますように。あなたがたに平和があるように」と呼びかけられました。

平和を望むすべての皆様、若者の皆様、この80年の間、幾世代にもわたって受け継がれてきた平和への歩みを自らのものとし、希望を携え、平和を紡ぐ旅をともに歩み続けてまいりましょう。

2025年6月17日
日本カトリック司教団

「平和月間」をふりかえって

シナピスセンター長 松浦 謙神父

今年 教区で新しい試みとして行われた2か月の平和月間のテーマは、「希望と平和の巡礼者となろう」でした。時間的なゆとりができたため、参加者も増え、内容も深まったように思います。

2019年に訪日された前教皇フランシスコは、広島「平和の集い」の際に、「思い起こすこと、ともに歩むこと、守ることの3つは倫理的命令です。この3つには平和となる道を切り開く力があります」と言われました。上記の3つのポイントが今年の平和月間行事にどのように活かされているか、教区報に掲載された79教会からの報告と各地区の代表者による評価会(10/25)に基づいて総括してみます。

【思い起こす】戦争の記憶を風化させず、次世代に継承していかなければなりません。被爆者で核兵器廃絶運動を進める方の話を聞いたり、沖縄戦を体験したこどもたちの証言を学ぶ企画がありました。平和祈念講演会を開いたり、戦争記録映画やDVDを視聴したり、8/6の広島平和巡礼に参加したグループもありました。その他、戦時中拘留された外国人司祭たちがいたこと、阪神間や四国でもあった空襲など、戦争がもたらす惨劇をふり返り、犠牲者のために祈り恒久平和を祈念しました。

【ともに歩む】「子どもとともにささげる平和ミサ」をはじめ、青少年に積極的に参加を促したり、平和を祈るコンサートが開かれました。最近増えた外国籍の信徒も加えて、ともに考え、祈ったり、近隣の人びとに案内ポスターを配布し参加を呼びかけた教会もありました。

【いのちを守る】現在の世界情勢に焦点をあてた小教区もありました。ミャンマー、モザンビーク、ウクライナ、中東ガザを初め、世界各地での武力衝突、紛争の現実を取り上げました。これらの戦乱のため、多くの人が犠牲になり、人権が脅かされ、さらなる難民が発生しています。

今年のサブテーマ「苦しむ人、悲しむ人とともに歩む道」にあるように、「いのちを守るための行動を身近なところから始めよう」との思いをとも有しました。今年の平和月間を通して、教区民がそれぞれ熱心に祈り、真剣に考え、平和への決意を新たにすることに「希望のしるし」があると思います。「平和は可能である」という確かな希望を抱いて歩み続けましょう。

カトリック大阪高松教区報(2025年12月)より転載

内 容

◇姫路地区 P5～

◇神戸地区 P12～

◇阪神地区 P32～

◇北摂地区 P45～

◇大阪北地区 P51～

◇大阪南地区 P59～

◇岸和田地区 P69～

◇和歌山地区 P75～

◇香川地区 P78～

◇徳島地区 P80～

◇高知地区 P82～

◇愛媛地区 P85～

◇ 姫路地区宣教評議会主催

1. 開催日/場所/参加人数

- 7月12日(土)／加古川教会聖堂／52名+司祭2名ブラザー1名
8月2日(土)／相生教会聖堂／56名+司祭3名、ブラザー1名
8月9日(土)／姫路教会聖堂／52名+司祭2名ブラザー1名
のべ170名(司祭、ブラザーを含む)

2. 企画の具体的な内容

平和祈願ミサ及び聖体賛美式

7月12日(土) 加古川教会

グアダルーパの聖母の黙想と聖体顕示をテゼの祈り形式で行った。

8月2日(土)相生教会

ルルドの聖母の黙想と聖体顕示をテゼの祈り形式で行った。

世界中から集められたストラの展示(相生教会聖年期間常設)

8月9日(土) 姫路教会

ファティマの聖母の黙想と聖体顕示をテゼの祈り形式で行った。

長崎原爆の日にして11時2分に長崎の鐘を鳴らす。

最終日なので分かち合いの時間(茶話会)をもった。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

姫路地区は今年聖年を迎えるにあたり、「希望の巡礼者」というテーマに沿って、大阪高松教区で指定された、地区の3つの巡礼教会で三か所の聖母出現について黙想を分かち合い共に祈ることで平和月間を過ごす。この一つひとつの祈りの時を通して平和リレーを繋いでいくことができますように、特に巡礼の中において、出現なさった平和の母君の言葉に耳を傾け、平和と一致を祈る機会とした。

ポスターを作成し各小教区、教会外の人にも参加を呼び掛けた。

4. 参加者の思いや感想

【7月12日(土) 加古川教会】

- ・聖体顕示台に入れられたご聖体を目の前にし、日々の忙しさの中で曖昧になっていた「神の臨在」を目の前の聖体をとおして明確に感じられた時間でした。
- ・聖体賛美式は、恥ずかしいことですが、わからないままというか、ありがたい、神々しいという感じのうちに終わっています。
- ・賛美式は与る機会が、少ないというより日々祈りながら、神さまと話をする時を持っていない自分を、いつも発見します。自分の信仰生活には、祈ることが必要だと。どうか、祈る人に導き成長させてください。
- ・私たちにはイエス様と同じ母がいる。私たちにはイエス様と同じ父がいる。私たちは孤児ではない。と力強いメッセージを語って下さいました。感謝です。
- ・繰り返される簡素な歌と静寂の中で祈りに導いてくださり、静かな落ち着いた雰囲気の中で聖体賛美式に与ることができました。「沈黙のうちに語られる神の声」に耳を澄ます時間となりました。

【8月2日(土)相生教会】

- ・静かに落ち着いた心で祈ることができました。皆さんと共に祈ることで、互いの信仰を支え合えるように感じました。
- ・展示されているストラの説明も印象に残った。
- ・ルルドの聖母の出現のメッセージは外的な軌跡以上に、内面の癒しと平和への呼びかけと言われます。心の平和なくして世界の平和は実現しない、平和は一人ひとりの平和な心から始まり、そして他者への愛につながっていくのではないのでしょうか。深い霊的なものを祈りの中で感じました。
- ・平和祈願ミサで司祭の話に一同心が和み、テゼ共同体による聖体賛美式において、しみじみとした祈りを捧げることができ、心からの平和祈願ができたと思う。
- ・静かな繰り返しの歌の中で、それぞれの祈りを唱え、平和への思いが増幅していったように感じた。とてもよかった。

【8月9日(土) 姫路教会】

- ・長崎被爆 80 年目の朝、平和への想いを新たにしました「復活の鐘蒼天に長崎忌」 T・H
- ・ミサの後の分かち合い(茶話会)では被爆地長崎出身のかたとお話をさせていただき地区としての行事の広がりとお話させていただき感謝～。
- ・共同祈願では世界平和のため、また病者のため、一日も早く争いが終わるように等、多くの祈りが捧げられた。
- ・来年もこのようなプログラムの取り組みをしてほしい。
- ・私は一人ではない「私はあなたと共にいる」老いるまで白髪になるまで私はあなたを背負うと共に歩んでくれる神がおられるというメッセージに感謝します

5. 「平和『月間』」としたことについて、ご意見をお聞かせください

- ・今年は例年になく早くから猛暑となり、暑さ対策のための月間にはなりませんでしたが慌てずに計画、実施できたことは良かったと思います。(加古川)
- ・シリーズで同じテーマを取り上げることができるのが良い。(相生)

7月12日(土) 加古川教会



8月2日(土)相生教会



8月9日(土) 姫路教会



◇ 姫路地区 中ブロック 姫路教会

1. 開催日/場所/参加人数
7月20日(日)/姫路教会聖堂/43名
2. 企画の具体的な内容
「世界平和の実現へ」をテーマに被爆体験者であり、核兵器廃絶運動の語り部である林勝美氏を招いて講演していただいた。
講演後分かち合いの時間を持った。
3. 計画するにあたって大切にしたこと（ねらいや目的）
今年には戦後80年、高齢になられた被爆者の皆さんが残された時間の中で貴重な体験を必死に伝えようとしていることを通して核兵器をなくし、平和を実現していくためにはどうしたら良いかを分かち合う。
4. 参加者の思いや感想
 - ・1945年8月6日、広島原爆の爆心地から1.3キロの自宅で「ピカッ」と光って「ドーン」…… 体験をされた方だからこそのお話が生々しく響きました。
 - ・「戦争は人間の仕業」「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことである」…と教皇ヨハネ・パウロ二世は広島でのべられました。折しも参議院選挙の日「平和」への具体的行動とは何か、考える機会をいただきました。
 - ・講演を聞き、被爆の悲惨な体験と、平和の実現には対話と相互理解が大切だという言葉に深く心を打たれました。しかし現実には核を持った国がいつでも核兵器を使うぞと脅しをかけながら侵略している状況も存在し、理想と現実のギャップに無力さを感じます。それでも、被爆者の想いを受け継ぎ、平和を求める声をあげ続けることが、これからの未来を変える一歩になると感じました。
5. 「平和『月間』」としたことについて、ご意見をお聞かせください
 - ・平和月間で期間が長くなったことで余裕をもって計画できることは良かった。



◇姫路地区 中ブロック 仁豊野教会

1. 開催日/場所/参加人数
8月3日(日) / 聖フランシスコ病院修道女会 姫路聖マリア病院聖堂 / 70名
2. 企画の具体的な内容
 - ・予め難民を経験した人々からの気持ちや願いを記入したアンケート用紙(①誰と来日したのか②来日した時の気持ち③今現在困っていることや不安があるのか④思いや願い)を回収し、平和祈願ミサの中で奉納した。
 - ・難民を経験した人々から経験談を聞き取り、また子供たち(難民2世3世)からも聞き取り調査を行いプレゼンテーションにまとめて発表した。(①歴史的な日本への来日経緯②来日後の生活③今の生活④子供たちのおかれている状況⑤ベトナム戦争終戦50周年を迎えて)
 - ・ベトナム語、日本語で平和を願う祈りを唱え、ベトナムの人々によるベトナム語の歌を合唱。
 - ・参加者へ感想を記入していただき掲示して紙面にて分かち合い。
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
 - ・今現在、教会でも少子高齢化が問題視されています。その中でもこれからの教会を作っていく一員として国籍関係なく皆で教会を作っていく必要があります。そのためにも、まずは互いに「知る」ことが大切だと思いました。ベトナムの方々との過去と今の状況を知ることで、これからを少しずつ共に一緒に歩んでいける最初の一步になるようお願い企画しました。
 - ・子供たちにも、ベトナム戦争で、大勢の民間の人の嘆き、苦しむ姿を見て、多くの民間人が命を奪われたことを伝え、なぜ自分が日本で生活しているのかを知る機会を作りました。そして、戦争の被害を見ることは本当に心痛くて嫌なことですが、知ることが平和への近道になると思います。考え、伝え、想像し、ともに語る機会を作り、平和と希望につながるようという願いを込めました。
4. 参加者の思いや感想
 - ・今までに言葉でしか知らなかった「ボートピープル」など理解できました。“無国籍”という守られることのない状況から解放されるように、社会の中での支援が必要と感じました。
 - ・2世3世の方たちの日常、ご家族での生活が今日のお話で分かり、ご苦労の中で前向きに歩んでおられることに感謝と喜びを感じます。今の日本でベトナムの方々への存在は本当に大きく大切です。(一般社会、教会共に)どうぞこれからも共によろしくお願いします。
 - ・まずは「知る」こと、そして「共に歩む」こと、それが平和につながっていくと思いました。
 - ・難民のこと、歴史的な事まで聞くことができ、知らない事も多く勉強になりました。また、教会共同体の難民で来られた方々がしんどいとか苦しいとかではなく「幸せ」を感じたり、未来に希望が見えているという感覚があるとのことが、とても良かったと思います。



◇姫路地区 中ブロック 豊岡教会

1. 開催日/場所/参加人数

7月13日(日)/ 豊岡カトリック教会 ホール / 12名

8月 3日(日)/ 豊岡カトリック教会 ホール / 6名

2. 企画の具体的な内容

【第1回行事】 DVD「あの日—この校舎で 一五十年前に被爆したナガサキの記憶—」を鑑賞し、感想を分かち合う。

【第2回行事】 前回視聴したDVDをもとに配布したアンケート用紙に記述をして持ち寄ってもらい、分かち合いを行う。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

【第1回行事】 広島への原爆投下とその被害に関する情報は割と得ているが、長崎の被爆状況に関する知識が少なく、意識の薄い状態と考える声が多かったため、災禍は同じようなものではない、との思いを共有することを目的とした。

【第2回行事】 DVDを視聴したあとの分かち合いからさらに一歩進んで、自らが平和への参画に意識を持つよう、能動的思考で意見交換を行う。

4. 参加者の思いや感想

【第1回行事】

・映像を見てショックを受けた。今まで見たことがなく認識を改められた。

・幼いころ長崎に居住していた経験があり、幼い時期であったとはいえ、原爆の閃光の記憶は生々しく、今でも雷が鳴るとあの当時がフラッシュバックされる。もう二度とあのようなことがあってはいけないと思う。

・反核運動は国内以上に海外へ発信していかなければならないと強く感じる。核保有は製造だけでなく貯蔵、管理、保全と多額のコストがかかり、無駄なことこの上ない。核戦争を起せばすべてが破滅になることは為政者もわかっているはずだから、実際には起こりえないことを考えれば、保有国同士で一刻も早い核削減、核廃絶の動きを取ってほしい、世界的な動きになることを願う。

【第2回行事】

※アンケート回答者は4枚(今回不参加3名含む)

【設問 A】全世界で核廃絶が進まない理由は？

- ・核保有国が抑止力として手放さないから
- ・被爆の惨状を知らない→広島、長崎へ訪れていないから
- ・将来、自分にもふりかかるかもしれない可能性を否定しているから→自分たちは大丈夫

【設問 B】わたしたち一人一人が取り組める平和活動として考えられるものは？

- ・署名活動、反戦デモ行進、SNS での発信、講演活動、資料展、学習会、意見交換会など
- ・子供たち、孫たちに語り継ぐこと
- ・政府や地方行政への嘆願、要望などの行動へ積極的に参加する

※カトリック教会としても、これまでの歩みを基本にして、さらなる共感を広げる手段を構築していく必要がある。一過性の行事として終わらないことが大切。

※今回の資料として、「各国の核弾頭保有数」、「広島と長崎へ投下された核爆弾の比較」、「世界紛争地図」、「古代から現代までの戦争や紛争の歴史」、「ベトナム戦争の歴史」を配布した。

※平和月間後でも時期を見て、小教区のベトナムの青年たちと紛争の歴史や平和のあり方を話し合う機会を作っていきたい。

5. 平和『月間』としたことについて、ご意見をお聞かせください

気を付けないと単なる「年中行事」化してしまいそうなこれまでの経験から、今回『月間』に設定されたことで、「平和」について一歩踏み込んだ学びや分かち合いが出来たと思う。ただ、酷暑に加え高齢化している現状では年々参加者が減ってきており、少しでも多くの参加者を引き付けられるよう、今後の開催について知恵を絞っていきたい。



◇姫路地区 東ブロック 加古川教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月10日(日) / 加古川教会、西脇分教会 / 170人

2. 企画の具体的な内容

- ① 平和祈願ミサ : 司式司祭、カレンガ神父、アントニ神父
ベトナムコミュニティ、フィリピンコミュニティも合同で、又アグネス会子供も参加
平和についての説教
- ② 期間中に信徒、ベトナム信徒、子供、平和への祈りカード96枚奉納
- ③ 平和への祈り奉納後信徒会館に掲示して分かち合っている。
- ④ ホール掲示板に80年前被爆した瓦(実物)期間中展示
- ⑤ 焼き場で順番を待つ少年の写真を展示

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

- ① 東ブロックテーマ「飢えて死んでいく子ども達、戦争がなくなり、平和な世界になりますよう祈りましょう」
- ② 被爆した瓦1800度にならない限り、あのようにならない。戦争の恐ろしさむごさ
- ③ 戦争のもたらすもの、長崎で撮影され、血がにじむほど唇を噛みしめた悲しみ
- ④ 大阪高松大司教区前田大司教様のメッセージを配布、教区の思いを知る

4. 参加者の思いや感想

- ① 平和の実現に対して皆で準備し、分かち合いベトナムの人々との出会いが出来た。
- ② 平和旬間は終わったので、今から隣人友人と2・3人いる所に私もいることを目指す。
- ③ 参加者の思いや、反応は少なく、残念です。



◇神戸地区社会活動委員会主催 ふっこうのかけ橋実行委員会後援

1. 開催日/場所/参加人数

7月12日(土) / 神戸中央教会 集会室・主聖堂 / 講演会:60名 平和祈願ミサ:35名

2. 企画の具体的な内容

中筋純さん（南相馬市小高区「おれたちの伝承館」館長・写真家）講演会

福島原発事故後に当時の浪江町長の「町の記録を残してほしい」との言葉から、許可を得て無人と化した町の四季の移り変わりの写真を撮り続けておられる中筋さんの活動や、今の思いを熱く語っていただきました。講演後は平和祈願ミサで参加者のみなさまと平和を祈りました。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

原発被災から14年が過ぎ、報道されることも少なくなりました。原発被災はまだ現在進行形です。美しく生まれ変わった地域の道の駅では毎週のようにイベントがあり人もたくさん集まり楽しい雰囲気が報道され復興が進んでいるように思います。そのすぐ近くにはだれも足を踏み入れない14年前のままの廃墟のような地域がたくさんあります。そのような現実を知っていただきたいと思いました。

4. 参加者の思いや感想

中筋さんのご著書に「コンセントの向こう側」という表現があります。私の家のコンセントの向こうはどうなのかと考えずにはいられません。

チェルノービリでの豊富な取材経験から福島との共通点、真逆な点を話してくださいました。チェルノービリでは立ち入り禁止区域へ無断で入り自分の土地で農作業をする人たちがおられ、その人達の事をサマシヨール(わがままな人)というらしいです。福島では除染も進み安全であるということで帰還がすすめられていますが、帰らない人が非難されたりしている。除染はあくまで生活地域だけで、周辺の山の除染はされていません。なにをもって安全というのか？

国や行政は 真実を受け止めないで、不都合なものを隠してしまうのだなあと残念に思うところもありました。復興という名前でごまかされてはいけなと感じました。



◇ 神戸地区 神戸西ブロック 北須磨教会

1. 開催日/場所/参加人数

7月6日(日) / 聖堂 / 朗読者 15名 参加者 約30名

2. 企画の具体的な内容

朗読会「長崎の鐘」(永井隆)

ミサ終了後、祭壇前に朗読用テーブル、両脇に朗読者待機ブースを設置し、永井隆博士著の「長崎の鐘」から15シーンを切り取り、それをつなげて一人1シーンずつ朗読した。(1時間弱)

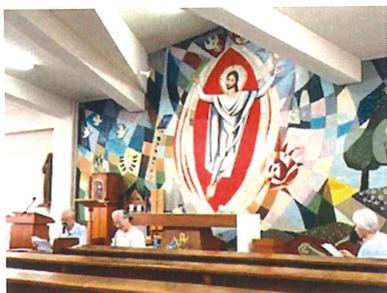
朗読会の前後にはテゼの「平和を祈る」を5節ずつ全員で斉唱し、祈りに代えた。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

- ・誰も知っている小説ながら、その1シーン、1シーンを我が事として味わうため、少しずつを一人ずつ読み重ねていくことにした。
- ・一人ひとりが味わいながら朗読できるよう、朗読の量、区切りに配慮した。
- ・すべてを祈りの中で進められるよう、聖堂内で聖歌を交えながら朗読することにした。

3. 参加者の思いや感想

- ・短い準備時間の中で、初めての取り組みながら、関係者が良く準備して満足なものにすることができた。また朗読者も気持ちよく参加していただき、スムーズに準備できた。
- ・朗読してくださった方、聞いてくださった方、双方から良かった、心に浸みたとの声が多く寄せられた。
- ・(参加者の声) 聞き入って、話に引き込まれました。広島原爆の話は何度か耳にしましたが、長崎の話は初めてでした。医師の立場から見た話も初めてでした。単に長崎に原爆が落とされて大きな被害を受けたという事実だけでなく、こういった体験者のエピソードを風化させてはいけないと思いました。



『平和関連図書コーナー』

平和月間期間中(7、8月中)1階ホールにて、教会蔵書の中から平和に関わるものをピックアップして陳列し、貸し出しも行っている。

ミサ終了後にはこのコーナーにおいて平和を祈る様々な曲も流しながら、目と耳で平和を訴えている。

◇ 神戸地区 神戸西ブロック 北須磨教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月3日(日) / 1階ホール / 約40名

2. 企画の具体的な内容

映画会「ヒロシマナガサキ」(スティーブン・オカザキ監督)

ミサ終了後、1階ホールに椅子、テーブルを広げ、正面に可動スクリーンを置いて、教区シナピスからお借りしたDVDをプロジェクターで放映した。

やや長時間の上映なので、お菓子とお茶を社会活動委員会、地区委員会で用意した。

放映終了後、天使祝詞を全員で唱え、終わりの祈りとした。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

あまり有名ではない映画で、集客を心配したが、思いのほか多くの人が残って下さった。

4. 参加者の思いや感想

・あまり知らない作品だったが、被爆者ほか証言者が自分の生の声で語っており、また生々しい映像も事実を淡々と写し、強く訴えかけられるものがあった。終了後、祈りの言葉もなかなか出てこないほどのインパクトだった。

・シナピスライブラリーにはまだまだ多くの作品が収蔵されており、もっと我々も積極的にお借りして上映を続けていかななくてはならないのではと反省させられた。

・あまり目にすることのない原爆投下直後の悲惨な映像をまじえ、14人の日本人被爆者と原爆投下に関与したアメリカ人4人の証言を中心に構成されるドキュメンタリー。80年前の原爆の貴重な記録として価値ある作品でした。



◇ 神戸地区 神戸西ブロック 北須磨教会

1. 実施日/場所/参加人数

8月5日、6日/広島/高橋神父様を含め6名

2. 企画の具体的な内容

折り鶴 広島奉納 巡礼

闘病中の信徒が平和のために折った千羽鶴を信徒有志が教会で紡ぎ、広島平和公園の原爆の子の像の下と幟町教会での平和祈願ミサに捧げてきた。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

一部有志の活動に留まらぬよう、折り鶴を紡ぐ作業はミサのお知らせで告知し、ホールで行うなど工夫し、出来上がった折り鶴の束は巡礼前に教会入り口に掲示した。



4. 参加者の思いや感想

- ・映画会で広島被爆の痛ましい姿を見た直後の広島訪問は 心に大きな感動を受けた。
- ・神戸にいては感じにくい全国、全世界の大きな平和への祈りを感じることができた。

5. 「平和『月間』」としたことについてご意見をお聞かせください

- ・これまでの10日間では実施期間に限られ、スケジュールを立てにくかったが、2か月の余裕があることで計画立案に自由度ができ、中身の濃い計画を立てることができた。
- ・様々なプログラムが余裕をもって2か月の間に開催され、近隣(市内)の行事に参加したり、近隣の方に来ていただいたりすることができ、連帯を感じることができた。
- ・今年は戦後80年ということもあったが、今までより深く平和への思いを感じ、表現することができた。
- ・平和月間のテーマにあげた『みんなで知ろう、知って祈ろう』はそれを知識に留めるのではなく、祈るために知るものであった。この思いを込めたテーマは今後も続けていきたいと思う。

『平和関連図書コーナー』

・実施結果と成果

今回新たに購入した本は2冊で、あとは以前から教会図書として長く置かれていた。被団協のノーベル賞授賞、戦後80年の歴史。そして7月の朗読劇を経て本は息を吹き返したように多くの手に取られ、読むために貸し出された。古い蔵書が命を取り戻したようだった。

◇神戸地区 神戸西ブロック 垂水教会

1. 開催日/場所/参加人数

7月13日(日)/信徒会館/35名

2. 企画の具体的な内容

「平和のために、何をしなければいけないのか？」をテーマに分かち合いと祈りの時間を持った。

第一ステップ「私たちの現状を知る」では、ショートムービーを観て、1回目の分かち合い。

第二ステップ「教会の示す平和について知る、識別」では、神父様から、平和についてのお話を聞き、識別をし、2回目の分かち合い。

第三ステップ「挑戦、平和のために何をするか」では、識別から具体的な挑戦へと広げて分かち合い、グループで協力してそれらの内容でポスターを制作した。

3. 計画するにあたって大切にしたこと（ねらいや目的）

分かち合いにおいては、ワークシートを用い、霊における会話を大切にしました。私たちの今の現状を知り、教会の示す平和について学び、識別し、最終的には、それぞれが今、平和のために何をしなければならないかを考え出すところまでを目的とした。

4. 参加者の思いや感想

とにかくグループでの分かち合いとポスター制作が楽しかったとの声を沢山聞いた。分かち合いは活発で、一人一人の意見にしっかり耳を傾け、尊重と自由な空気があった。グループ内でよく知らなかった人とも仲良くなり、連絡先を交換したりして、とても良い分かち合いと祈りの時間が持てたと思う。



◇神戸地区 神戸西ブロック 垂水教会

1. 開催日/場所/参加人数

7月13日～8月17日/垂水教会信徒会館/100名程

2. 企画の具体的な内容

3つのテーマに分け、流れを作って展示を行った。私たちの今を見つめ、教会の平和の教えに立ち返り、識別し、平和のために今から何をすれば良いのか、一人ひとりが考えていけるように工夫して、

①「私たちの現状」のコーナーでは、ライフル銃や、紛争地の写真、ポスター、憲法9条の毛筆書を展示。

②「教会が示す平和」のコーナーでは、子ども会で描いた希望のポスター、折鶴、教皇さまの教えや著書、平和の絵本、アシジの聖フランシスコ平和の祈りの毛筆書を展示。

③「私たちの挑戦」の展示コーナーでは、中高生会が描いたわたし達の将来についてのポスター、分かち合い参加者が描いたわたし達の挑戦についてのポスターを展示した。

3. 計画するにあたって大切にしたこと（ねらいや目的）

「平和の内に行きましょう 神を愛し奉仕する為に」を展示会の大切なメッセージとして発信した。

4. 参加者の思いや感想

ライフル銃を初めてみて、心臓がドキドキして、圧迫感を感じた。

子ども達の描いたポスターは色鮮やかで希望を感じ平和そのものだった。

毛筆で書かれたフランシスコの祈りは凜とした静けさを感じさせるものだった。



◇神戸地区 神戸西ブロック 垂水教会

1. 開催日/場所/参加人数
8月15日(金)、垂水教会 聖堂、約100名

2. 企画の具体的な内容

垂水教会の保護聖人、聖母の被昇天の祭日ミサにあたり、アマド神父様は「マリアの模範と平和」についてお説教された。ミサ後、リビングロザリオを行い、一人一人がロザリオの珠になり、聖堂内に大きなロザリオを形作り、ロザリオ一環と献香、献花を聖母に捧げた。聖堂内は聖母への感謝の思いで溢れた。

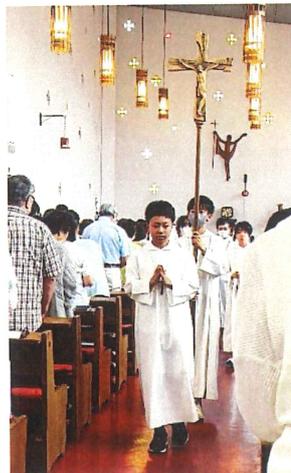
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

一人でも欠けると60名必要なリビングロザリオは出来ないので、信徒の協力が必要でした。そして、祈りは皆を一つにしてくれました。信徒の協力と、神さまの働き、このどちらもが大切なことでした。

目的はわたしたちが平和のうちにいる為、平和の証人になる為、聖マリアの模範にならい従う為。

4. 参加者の思いや感想

とても感動して素晴らしかった。みんなで捧げるという一体感を感じた。異なる言語を交えてのロザリオは、わたしたちが同じ地球の住人であることを感じつつ、聖母に平和を願った。何年も前のこの日に受洗された信徒は、これまでの信仰生活を振り返り、感謝の気持ちをロザリオに乗せて聖母に捧げることができ、感慨深かった。ベトナムの方は、こんな良いチャンスをいただいて有難うございました。参加したお父さんお母さんたちは、我が子がマイクを持ってお祈りするのを聞いて感動していました。



◇神戸地区 神戸西ブロック 垂水教会

1. 開催日/場所/参加人数

垂水教会

8月17日(日)

閉幕ミサ:聖堂、参加人数約130名。

茶話会:信徒会館、参加人数約70名。

2. 企画の具体的な内容

平和旬間の閉幕ミサとして、多言語によるミサを行った。アマド神父様はテーマである「平和は和解と連帯」についてお説教された。

ミサ後、外国人と日本人との交流の為、茶話会を行った。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

これからの教会を考え、外国人と日本人が協力し連帯していくことを目的とした。

9月の垂水インターナショナルデーや、評議会のオブザーバー参加等にも繋げていきたい。

茶話会では、温かな気持ちになること、思いやりの心、交わりを大切にしたい。

4. 参加者の思いや感想

色々な言語が話されたこのミサを通して、私たち日本人だけではなく、世界は繋がっているのだと改めて実感し、とても開かれた気持ちになった。今回だけでなく、ずっと続けて欲しいと思った。

茶話会では、フィリピン人や日本人の手作りのお菓子が並び、会話もはずみ、心もお腹も満たされた。



◇神戸地区 神戸西ブロック 洲本教会

1. 開催日時／場所／参加人数

8月10日平和祈願ミサ/カトリック洲本教会/32人

8月24日平和祈願行事/カトリック洲本教会/28人

2. 企画の具体的な内容

- ・平和祈願ミサの中で、みんなの平和への願いを1つにする
聖年のロゴマークに一人一人の願いを書き、みんなの願いをロゴマークの周りに貼り付けて願いを見える化する。
- ・平和祈願行事
「真っ黒なお弁当」の絵本の読み聞かせ（予定では、平和に関するアニメを上映することになっていたが、機器の都合により、日を変えて絵本の読み聞かせに変更した）

3. 計画するにあたって大切にしたこと

- ・平和祈願ミサの中で、みんなの願いを見えるようにすることで、みんなの願いが一つになることが一目でわかるようにしたい。一つになったロゴマークをしばらく教会内に掲示しておき、平和への思いを新たにしたい。
- ・これまで、戦争体験者の話を聞いたり、子供たちによる戦争に関するプレゼンをしたりしてきたので、今回はアニメ鑑賞を企画した。残念ながら機器の都合により上映はできなかったが、その代わり絵本の読み聞かせをした。

4. 参加者の思いや感想

- ・毎年、この時期に何らかの形で戦争の話題に触れ、平和への思いを新たにしているが、このような機会を持てることは大事だと思った。
- ・真っ黒なお弁当の話は、この絵本に出てくる人物だけではなく、おそらくその当時はどこにでもあった話ではないかと思う。そう思うと、このような悲しい思いをする人が2度と現れないように、戦争はしてはいけないと強く思った。
- ・絵本の読み聞かせを聞いていると、とても悲しくて涙が出そうになった。80年経って、あの戦争を知っている人は少なくなってきたが、決して忘れてはいけないと思った。
- ・被爆国であるからこそ、語り継いでいかなければならないと思う。日本だけではなく世界各地で起きている戦争や紛争が、1日も早く終わり、平和な世界がおとずれますように。



◇神戸地区 神戸西ブロック 明石教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月5日～6日 / 12名(明石教会 6名、姫路教会 6名) /
広島 <幟町教会(世界平和記念聖堂) 平和資料館、平和公園、原爆ドーム、他>

2. 企画の具体的な内容

中高生中心に広島の地での平和学習・・・被災地訪問、神父様、被災者のお話を聞く等、
爆心地に近い本川小学校訪問、被爆の傷跡を残した校舎や当時の様子を伝える展示品の鑑賞
平和資料館、原爆ドームの見学、 世界平和記念聖堂にての平和祈願ミサに参加、
カトリックユースプログラム「世代を超えて話し合う」に参加。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

参加する中高生により「平和」の大切さを学んでもらえるように戦争や原爆関連動画を
使用して事前学習を行った。

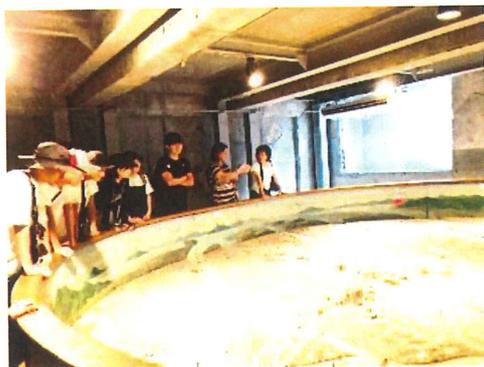
参加する中高生たち自身で戦争や平和についての意見が持てる様にクイズ形式の
学習をした。

4. 参加者の思いや感想

カトリックユースプログラム「世代を超えて話し合う」に参加し、他県の小中高生と
意見を述べ合って、住む地域も年齢も異なる人々とのディスカッションが貴重な体験だった。

原爆資料館や爆心地の傷跡を沢山見て戦争が如何に「悪」で平和が如何に尊いかを
感じる事が出来た。

核兵器の恐ろしさを改めて感じた。



◇神戸地区 神戸中ブロック たかとり教会

1. 開催日/場所/参加人数

2025年7月13日 / (たかとり教会聖堂) / 20人

2. 企画の具体的な内容

母国ベトナムを離れ、日本に来ている方はおよそ60万人。たかとり教会では主日のミサに
来られている青年に聞きました。何時、どんな目的で来られて、日本の生活で困ったこと、
嬉しかったことなどを話していただきました。どのようにしたら、共に歩めるかを考える。

3. 計画するにあたって大切にしたこと (ねらいや目的)

お互いを知って、愛と一致に満ちた教会を目指すため

4. 参加者の思いや感想

- ・名前もなじみがなく、ただいつも一緒にミサを受けているかんじだったので、貴重な話が聞けた。
- ・言葉のハードルはなかなか高く、どうしても気楽に話せる方にながれてしまうので、どこかで、このような、聴き合う、話し合う機会があればいいと思った。
- ・話したことのない彼ら、彼女らに率先して話しかけていくことを大切にして、実行していきたい。



◇神戸地区 神戸中ブロック 鈴蘭台教会

1. 開催日/2025年8月31日
場所/カトリック鈴蘭台教会聖堂
参加人数/52名

2. 企画の具体的な内容

ウクライナから神戸市北区に避難されているバレエダンサーのヴィクトリア・コスチュチェンコさんとボグダン・チャバニクさんに約2年ぶりにお越しいただき、日本でのその後の生活の中心に近況等をお聞かせいただきました。ボグダンさんが代表を務められる交流施設「ウクライナハウス」(神戸市中央区栄町通2)では、慣れない日本で孤独な生活をしている人らがクリスマスや正月など季節のイベントで集まったり、両親の来日後に生まれた子どもたちがウクライナ語を学んだりする場所として活用されますが、日本人との交流を進めるとのことでした。まだまだ戦火が止まない故郷ウクライナのことに心を痛めながらも異国の地で精一杯生きる家族の姿を見ることができました。いち早い平和の到来を祈るばかりです。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

日本は今年で戦後80年を迎えましたが、世界各地では、今なお戦争や紛争が続いています。ウクライナの問題だけではなく、ご縁があって2年前にお越しいただいたご家族のことが、その後どうなっているのかということが気がかりで、今回の企画となりました。ある日突然、戦争に巻き込まれ不条理な生き方を余儀なくされたご家族に少しでも寄り添うことができればと願いつつ、世界への平和の到来を希求します。

4. 参加者の思いや感想

今回はご両親とともに娘さんが来てくれました。小学校3年生で日本語がとても堪能です。子どもって凄いとその順応力に驚きましたが、やはり来日当初はつらく悲しい思いにさいなまれていたと聞きました。とっても素敵な笑顔ありがとう。がんばってね。

5. 平和月間について

今回の平和月間はとても良い取り組みだと思います。当教会では企画運営を社会活動委員会で行いましたが、委員会として大変やりがいのある行事になったと思います。また、他の教会の動きが手に取るようにわかるのも大変参考になりました。



◇神戸地区 神戸中ブロック 三田教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月10日(日) / 三田教会聖堂 / 30名

2. 企画の具体的な内容

・所属信徒から幼少期の頃の戦争の記憶や当時の生活状況と三田教会創立当時の外国人神父との出会いを通して十数年後に信仰生活に入り歴代の神父様や教会の思い出などについてお話ししてもらう会。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

・戦後80年を迎え、戦中戦後の体験など当時の状況を語れる信徒が減っていく今日、まず身近な信徒から戦争体験を聞くことにより戦争がもたらした悲惨な状況、食糧事情などを生の声を聞くことにより、今ある平和の世の中を改めて考え、戦争を知らない世代に、戦争というものがどういうことであったのかを通して平和の大切さ、尊さを考えるキッカケとする。

・三田教会が外国人宣教師により建てられることによる当時の外国人に対する偏見やデマに対する世の中の風潮から本当のを知ることが大事である。

4. 参加者の思いや感想

・子どもながら空襲によって空が赤く染まっていた記憶をされていることに改めて戦争というものを考えさせられた。

・機銃掃射のお話は生々しかった。昔のことをよく覚えておられ驚いた。

・戦中戦後の食糧不足など子どもながらに苦しい時代を経験されており、今の平和な日常生活がおくれていることに、今一度平和の尊さを感じることが出来たお話しでした。

・外国人の神父様との出会いやエピソードなどのお話を聞き、三田教会の昔の歴史を知ることができました。

・約70年程前に外国人の宣教師が三田の地を求め宣教活動を始められたことに感謝します。また、教会が献堂されその後洗礼を受けられたことに感謝します。

・三田でも空襲があったことや戦争に関する遺物や資料が残っているというお話が聞けて良かった。戦争の悲惨さ、平和の大切さを考えさせるお話しでした。

・父親の転勤によって幼少期に三田に引っ越しされ、その後外国人司祭との出会い、信仰生活に入られたお話が良かった。



◇神戸地区 神戸東ブロック 神戸中央教会

1. 開催日/場所/参加人数

7月13日(日)/カトリック神戸中央教会 主聖堂/約200名

11時40分～ 映画上映会「壊された5つのカメラ パレスチナ・ビリンの叫び」

場所：カトリック神戸中央教会 集会室 参加人数 約40名

2. 企画の具体的な内容

- ・平和祈願ミサ(バイリンガル) お説教(ブインガ・ブレイズ神父、コンスタンシオ・コンサルタ神父)の中で平和についてお話し頂く。共同祈願で平和のために追加で祈る。
- ・映画上映会「壊された5つのカメラ パレスチナ・ビリンの叫び」90分
- ・平和ツリー(中高生会作成)に平和への思いや祈り、メッセージをポストイットに書いて貼る。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

- ・通常は日本語、英語、それぞれのミサに与っている信徒が共に一致して平和祈願ミサ(バイリンガル)で平和のために祈り、共に平和について考えることができればと思った。
- ・現在、戦禍の中にあるパレスチナの方たちのことを映画を通して知り、その平和のために祈り、平和について考える機会になればと思った。
- ・上映時間が長いので、上映会前に軽食(サンドウィッチと飲み物)をとれるようにした。
- ・中高生の皆さんが平和ツリーの作成を通して平和について考える機会となるように、また小教区の皆さんに、平和への思いや、祈り、メッセージを書いて頂き、平和ツリーに貼ることによって、平和を願う思いを共有したり、平和について考える機会となることができればと思った。

4. 参加者の思いや感想

- ・バイリンガルミサで、日本語、英語グループが共に平和のために祈ることができてよかった。
- 映画について
- ・ガザの報道はよくされているが、西岸地域のことがわかった。生まれてくる場所を選べない子どもが、かわいそうに思った。祈る以外に自分に何ができるかを考えた。
- ・以前に見た時よりも字幕がはっきり見えてよかった。
- ・映画は一般市民からの視点で作られていて、身に染みた映画でした。
- ・次回は英語字幕もあれば、もっと英語グループの参加もあると思います。
- ・何度も戦争を始めてしまう人間だけど、戦争を止めることができるのも人間。
- ・知恵を出し合って早い平和を願います。
- ・戦闘シーンに胸が痛んだ。
- ・パレスチナの人が住んでいる地域に、イスラエルが入植していることを知らなかったが、映画を見て知ることができた。
- ・現在、ガザでの激しい戦禍の様子をニュースで見聞きしているが、映画が製作された2011年より前に既に、パレスチナで映画のような戦闘が始まっていたことがわかった。
- ・子ども(小学生)の参加があったので、戦闘場面があるという説明を事前にした方がよかったのではないかと思った。
- ・国や民族の違い、過去の歴史等、様々な要因による分断と憎しみを乗り越えて共に生きるためにはどうすればよいのか、平和への祈りの必要性とともに考えさせられた。



◇神戸地区 神戸東ブロック 神戸中央教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月10日(日)/ 平和祈願ミサ 主聖堂 / 約150名
絵本「へいわってすてきだね」読み聞かせ 集会室 / 約50名

2. 企画の具体的な内容

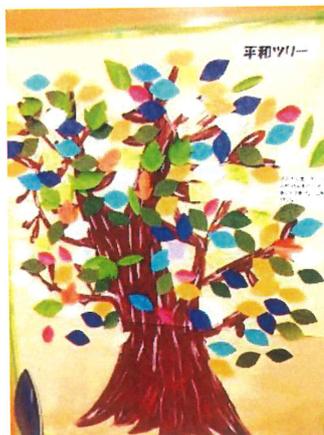
- ・平和祈願ミサ(子どもと共に捧げるミサ) 平和のための共同祈願(子ども、大人)
平和についてのお説教(ブレイズ神父)
- ・「へいわってすてきだね」の絵本をプロジェクターに映して読み聞かせ(教会学校リーダー)
- ・絵本「折れたクレヨン」読み聞かせ(教会学校リーダー)
- ・平和ツリー(7月から継続)平和への祈りやメッセージを葉っぱの形の紙に書いて平和ツリーに貼る。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

- ・平和祈願ミサを通して、子どもと大人が共に戦争や原爆で亡くなった方の為、また平和のために祈る。
- ・教会学校と中高生会のリーダーが中心となって、子どもたちによる共同祈願、絵本の読み聞かせや平和ツリーを通して子どもたちに平和の大切さを伝える。また、大人も平和の大切さを再確認し、平和のために何ができるか考えるきっかけとする。

4. 参加者の思いや感想

- ・平和祈願ミサ(子どものミサ)は、子どもが参加しやすい環境で、お説教も子どもにわかりやすくよかった。
- ・絵本は短かったけれど、子どもにも、わかりやすい内容でよかった。(以上保護者の方)
- ・平和は大事だと思った。(中学生の感想)
- ・絵本の読み聞かせの試みはよかった。
- ・このような機会(平和祈願ミサや、絵本の読み聞かせ)は大事だと思った。



◇神戸地区 神戸東ブロック 住吉教会

1. 開催日/場所/参加人数

- ① 7月～8月:霊的花束(祈りの花束) / 住吉教会聖堂前ホール / 信徒全員参加
- ② 8月3日(日):平和祈願ミサ / 住吉教会聖堂 / 参加者約100名

2. 企画の具体的な内容

- ① 霊的花束(祈りの花束)
 - ・信徒が書いた平和への祈りのカードを集め「花束」に見立て、神様にささげる。
(平和祈願ミサの中で祭壇にささげる)
 - ・カードには平和への祈りの言葉に加え、できれば「主の祈り」や「ロザリオの祈り」などの回数も書いて、毎日習慣的に唱えるよう努める。
- ② 平和祈願ミサ
 - ・共同祈願で「平和を求める祈り」を全員で唱える。
 - ・ミサの中で「霊的花束」のカードを祭壇にささげる。
- ③ 住吉教会の90年の歩みの中で「平和」について考える。～写真と文を展示～
〈戦時中の住吉教会と外国人の神父様方の「受難」〉
 - ・住吉教会が空襲に遭い、神父様方も苦難の日々を送られたこと。
 - ・西村神父様が「出征」を余儀なくされたこと。
 - ・カスタニエ大司教が司教座を降り、住吉教会の主任司祭となられたこと。
 - ・外国人の神父様方が行動の自由を制限されたこと。
 - ・住吉教会の初代主任司祭メルシエ神父様が官憲に逮捕・拘留され拷問を受けたこと。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

- ① 霊的花束(祈りの花束)
 - ・自らの平和への思いを祈りの言葉にすることで、心にしっかりとどめる。
 - ・平和への思いを心にとどめながら「主の祈り」や「ロザリオの祈り」を唱えること
によってその思いをさらに強く心にとどめる。
- ② 平和祈願ミサ
 - ・「平和祈願ミサ」で平和月間への意識を高める。
 - ・皆で作成した祈りのカード(霊的花束)を祭壇にささげることで共同意識を高める。
- ③ 住吉教会の90年の歩みの中で「平和」について考える。
 - ・「平和の大切さ」を世代を超えて伝えてゆくことができるように、まずは戦争の悲惨さや不条理さについて教会の歴史資料を通して、特に若い世代に伝える。
 - ・グローバル化の時代と言われ、多文化共生の取り組みが活発化する一方で、日本国内でも「外国人排斥」の動きが出始めている。
戦時中に外国人の神父様への弾圧があった事実を踏まえ、「多文化共生のあり方」をカトリックの立場からもう一度考え直す「きっかけ」としたい。

4. 参加者の思いや感想(信徒へのアンケートから)

《霊的花束について》

- ・「祈りの花束」を朝晩の祈りに加えて祈りました。
- ・花束のカードに記入することによって、意識して実行することが出来たと思います。
- ・自分で決めたことをカードにすることにより、祈ることがより身近に感じられました。
- ・アヴェ・アリアのロザリオの祈りを唱えることができました。ありがとうございます。
- ・始めるのが遅かった。平和祈願ミサに奉納するのを目的とする方がよい。

《平和祈願ミサについて》

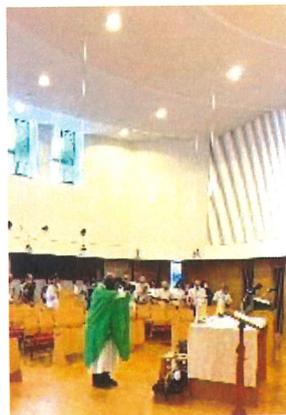
- ・皆が心をひとつにして平和を祈願するということは大変意義があることだと思います。
- ・とても良かったです。与らせていただいて感謝しております。
- ・今の時代に必要です。今後も継続するべきです。

《住吉教会の90年の歩みの中で「平和」について考える【展示】について》

- ・展示を作ってくれた方に感謝。
- ・今年は戦後80年に当り、あの戦争について思いをめぐらす良い機会となりました。色々な展示をされた係の方のご尽力に感謝します。
- ・メルシェ神父様の記事はひどいことだと思いました。(赦さないといけないのでしょうか)
- ・とても歴史を感じさせていただきました。この素晴らしい伝統を大切にしながら、若い人にも魅力的なカトリック教会に進化していけますようにお祈りしております。

《その他》

- ・平和についてもっと議論を交わし深める機会が欲しい。



◇神戸地区 神戸東ブロック 六甲教会

1. 開催日/場所/参加人数

7月27日(日) / 六甲教会 イグナチオホール / 60名

2. 企画の具体的な内容

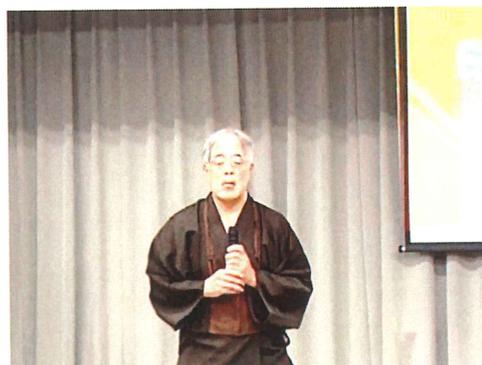
「人間の一人の生命は全地球よりも重い」という社会が実現されるまで、わらじを履いて、特に冤罪者の命を救う運動を托鉢で全国を回られた今は亡き父古川泰隆師の遺志を受け継いだ古川龍樹師の話を聞いた。今回は、「福岡事件」で冤罪のまま死刑執行された西武雄氏のことを取り上げて、今日の司法の歪みを是正して、死刑制度の見直し、そして、再審請求ができる家族が亡くなくても再審請求できる法案を生み出すことによって、免罪者が歪んだ法の下で死刑台に上がらされなくてもすむような運動を続けていく古川師の熱意が感じられた。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

人の命を大切にできる社会をみんなで作って行くことを共感し合うことが一つのねらいであり、その結果、彼の運動を支援したい人が一人でも多く増え、活動に必要な寄付を募ることも主催者側の願いでもありました。

3. 参加者の思いや感想

- ・無実の者が死刑になるという悲しい出来事が繰り返されてはならない。
- ・今の再審法では、冤罪者に家族がいない場合は、再審を請求できなくなっているの
で、再審法を改正して弁護士や、第三者の公的機関が再審請求できるようにしなければ、冤罪者は救われないという厳しい現実がわかった。
- ・法務大臣が再審を見直しせず、いとも簡単に死刑執行のスタンプを押して、その直後に無実の人を死刑執行してしまった国のありかたに怒りを覚えた。
- ・タイムリーかつ日本が抱える重いテーマただけに、もう少し多くの人に集まってほしかった。
- ・畳2, 3畳の独房で28年間過ごした西さんがどれほど孤独で寂しかったことだろうか。



◇ 神戸地区 神戸東ブロック 六甲教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月9日(土) / 聖堂 / 45名

2. 企画の具体的な内容

- ・ジャーナリストの西谷文和さんから、ガザやシリアの現状をお聞きする。
- ・なぜ戦争が起こるのか、続くのかを考える。
- ・平和構築のため、どのような見方、考え方が必要かを考える

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

ニュースが多く流れ、ともすれば当たり前のことになってしまっている「戦争」という現実をしっかり受け止め、どのような見方や考え方を持つことで平和の構築に貢献できるかを考える機会としたかった。

4. 参加者の思いや感想

- ・百聞は一見に如かずではないが、やはり実際に取材した方の話はパワーがある。
- ・戦争とウソ、広告との関係を再認識した。
- ・中村哲さんは食べ物を豊かにすることで人々の心を平和にした。ドイツの平和村は戦争で傷ついた子供を受け入れ治療をすることで平和に貢献した。これらの取り組みにカトリック教徒として平和に貢献するヒントがあると感じる。



◇ 神戸地区 神戸東ブロック 六甲カトリック教会

1. 開催日 / 場所 / 参加人数

8月30日 19:00~20:00 / 六甲カトリック教会主聖堂 / 100人

2. 企画の具体的な内容:

「平和を祈るテゼの集い」という題名で集まりを開いた。まず、聖堂を暗くし、ろうそくを祭壇前にたくさん置くことによって、厳粛な祈りの雰囲気を整えた。

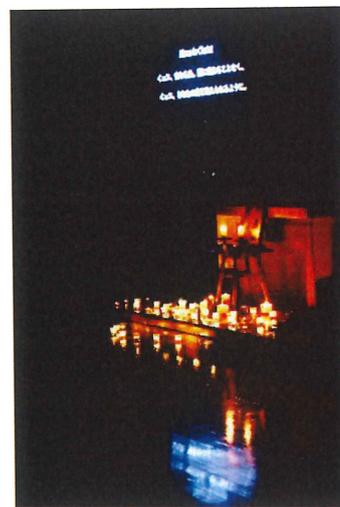
集いの中では、テゼの歌を繰り返し歌い、聖書を黙想し、共同祈願とともに祈ることを通して、参加者が心を合わせて世界平和のために祈った。当協会の音楽チームが協力したこともあり、テゼの歌の美しいハーモニーが教会内に響き渡った。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

世界平和のために心を合わせて祈ることが目的であり、その目的のために採用された祈りの形式が「テゼの祈り」であった。今回のプログラムを構成するにあたり、世界各国の同様のテゼの祈りの集いを参考にした。

4. 参加者の思いや感想

- ・テゼの祈りの集いに初めて参加したが、厳粛な雰囲気の中でテゼの歌を大勢の人とともにうたうことによって、祈りの世界に没頭することができた。
- ・世界平和のために他者と一緒に祈ることはなかなかないので、とても良い機会となった。今回の祈りを神が聞き入れてくださることを願う。
- ・テゼの歌を歌っていくうちに、心が洗われる思いがした。
- ・「テゼの祈り」の集いに初めて参加したが、良い意味でびっくりした。今までこのような歌を中心とした祈りの形があることを知らなかった。テゼの祈りを歌っていくうちに、歌うことが祈りであることを改めて認識させられた。毎月開催してほしい。



◇阪神地区 合同

1. 開催日/場所/参加人数
6月22日(日)/カトリック芦屋教会/20名
2. 企画の具体的な内容
 - ① 戦争体験のノンフィクション紙芝居「戦の少年期」をプロジェクターで投影しながら朗読
ういっしゅが朗読した。
 - ② DVD「もう一つの沖縄戦記」(沖縄県平和学習研究会)を視聴し沖縄戦を体験した子どもたちの証言を学んだ。
 - ③ 3月に行った沖縄平和学習の報告を川邨神父が行った。
今年は米軍上陸から終焉の地までをテーマに米軍と日本軍との激戦地を巡った様子を写真をもとに振り返った。
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
戦後80年、沖縄慰霊の日(6月23日)を大切に、民間人から見た戦争、沖縄戦の証言そして平和学習の取り組み報告を通して主体的に戦争を振り返る機会とした。
4. 参加者の思いや感想

戦争、とりわけ沖縄戦の実態を理解できたこと
DVD「もうひとつの沖縄戦記」は胸に迫るものがあつたので広く若い人に見てもらいたいとの声があつた。

大坂高松教区 阪神地区

平和月間 2025

JUBILEE 2025

希望の航海

私たちは今、世界が様々な不安と分断にさらされる中で、改めて「平和とは何か」「いのちの尊さとは何か」を問い直す刻を迎えています。大坂高松教区では、2025年度の平和月間を7月と8月に決めました。阪神地区では、6月23日の「沖縄慰霊の日」を祈念し、6月～8月にかけて3つの取り組みを予定しております。ひとりひとりの学ぶ、祈る、考える、という行動が、やがて世界を変える大きな力となります。どうぞ心を合わせて、ご参加下さい。

6月22(日)14:00～ カトリック芦屋教会
戦争体験を元にした紙芝居「いくさの少年期」口演と沖縄戦DVD鑑賞

7月21(月・祝)10:00～ カトリック夙川教会
酒井輔佐司教 司式、阪神地区の司祭と共に平和記念ミサを捧げます

8月10(日)10:00～のミサ後 カトリック仁川教会
核なき世界への実現に向けて私たちにできること～身門会による講演

◇阪神地区 合同

1. 開催日/場所/参加人数

7月21日(月) / 夙川教会 / 約260名

2. 企画の具体的な内容

2025 聖年「希望の巡礼者」の年にあたり、平和月間の行事の一つとして大阪高松教区阪神地区9教会が合同で平和祈願ミサを行う。主司式は酒井俊弘補佐司教、ほか諏訪榮治郎名誉司教(武庫之荘教会)はじめ9教会の主任司祭による共同司式でミサが捧げられる。ミサの準備、式次第の作成などは阪神地区典礼委員会が担当する。典礼奉仕、堂内整理などを9教会で分担する。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

9つの教会の司祭と信徒が一堂に会して、世界中で戦争の犠牲となった人々、今なお様々な戦いや貧困、飢餓などで苦しみや悲しみの中にいる人々のために平和を祈念し、「希望の巡礼者」として歩いていく決意を新たにすること。

4. 参加者の思いや感想

酒井補佐司教様がお説教の中で語られた「戦争で苦しんでいる人々にとって、全世界で捧げられている祈りが希望を抱く力(絶望からの回復力)となっている。私たちは、祈り続けることによって平和への道とともに歩いていきましょう。」というお言葉に大きな勇気を頂くことができた。2018年以来の合同ミサであったが、会衆の平和を祈り求める気持ちが一つになって、大変意義あるミサであったと思う。

また香川県高松市から桜町教会巡礼団の方々(松浦信行神父様と30名)と一緒にミサに与られた。



◇阪神地区 阪神地区社会活動委員会主催 「平和学習講演会」

1. 開催日/場所/参加人数

8月10日(日)10時半~12時 / 仁川教会聖堂 / 70名

2. 企画の具体的な内容

仁川教会の9時からの平和祈願ミサに引き続き、「平和学習講演会」として、広島原爆死没者追悼平和祈念館から派遣される被爆体験伝承者・清野久美子さんの講演会を開催。

講演後、他教会の方も交え茶話会を実施。

3. 大切にしたこと、ねらい(目的)

- ・被爆体験伝承者から被爆の実態を聴き、核なき世界を目指す気持ちを持っていただきたい。
- ・被爆体験者が減少していき、被爆80年の年で「被団協」にスポットが当たっている今こそ、核なき世界を目指すように「核のもたらす悲惨さ」を伝えたいと思った。

4. 参加者の思いや感想

- ・被爆された家族の話から、一瞬で人の一生を変えてしまう原爆の恐ろしさを再確認した。
- ・講演後、他教会の方も交え、茶話会をして交流ができた。
- ・本当に良かったという感想を多くの方からいただいた。



被爆家族伝承者の講演
原爆の温度が示された光景



◇阪神地区 夙川ブロック 芦屋教会

1. 開催日/場所/参加人数
7月27日(日) / 芦屋教会聖堂 / 40名
2. 企画の具体的な内容
講演会「核兵器廃絶へ 被爆者として生きて80年」
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
世界各地で起こっている戦争や紛争、核兵器再開発等で平和が脅かされている今、平和について考え、祈り、行動する機会になることを期待して開催した。
4. 参加者の思いや感想
 - ・被団協の地道な活動を知る事が出来た。
 - ・報道などで知っているつもりのことを被爆者の言葉で聞くことで身近の事として考える事が出来た。
 - ・「被爆したことを憎むのではなく、自分たちのような思いを二度と繰り返してはいけないとの思いで活動をしている。」の言葉に重みを感じた。
 - ・今日の話聞いて平和への思いを、祈りと行動で伝えて行こうと思った。



◇阪神地区 夙川ブロック 甲子園教会

1. 開催日/場所/参加人数
7月27日(日)9時半のミサ後 / 甲子園教会聖堂 / 35名

2. 企画の具体的な内容

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

戦後、80年の節目の年に原点に戻り、平和について考えるにあたり、以前被爆者証言をしていただいた方に連絡をとった際にその方が亡くなられていた事を知りました。被爆者の年齢も90歳を超えており、被爆者の方の声を聞く事が出来ないと思っていましたが、その方の奥様が被爆二世としてまだ、旦那様の意思を継いでお話をしていただける事になりました。

4. 参加者の思いや感想

・広島には教会や西宮市を通じて平和学習で何度か訪れたことがあります。講演の始めにあった朗読も聞いたことのあるものでしたが、何度聞いても同じ言葉や同じ場面で胸が締めつけられるような感覚になり、そのたびに原爆の残酷さや平和の尊さを痛感します。

・貴重なお話を聞く事が出来て良かったです。忘れては決していけない事を改めて思いました。

・被爆者証言をされる方の高齢化で、戦争や被爆の体験を語り継いでいく事の大切さを再認識しました。戦争を体験していない私たち1人1人がどのような選択をしていくのか。平和について今一度考え、たけちゃんが目指した世界に近づけるようにと願うばかりです。貴重な機会をありがとうございました。



◇阪神地区 夙川ブロック 夙川教会

1. 開催日/場所/参加人数

7月21日(月) / 夙川教会お聖堂 / 65名

2. 企画の具体的な内容

被爆から80年 唯一現存するパルチコフさんの被爆ヴァイオリンで紡ぐ

被爆3世のバイオリニストの伊藤さくらさんとチェロニストのグスタフ・ヴォッヒヤーさんの平和への祈りコンサート

夙川教会では7月21日(月・祝)地区9教会合同の酒井補佐司教司式のもと平和祈念ミサが行われました。ミサに引き続き聖堂で平和月間の催しとして、夙川教会社会活動委員会主催 : 被爆から80年(被爆ヴァイオリンとチェロで奏でる平和への祈り)ミニコンサートが行われました。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

今回のコンサートで使わせて頂くヴァイオリンは、ロシア革命の時に祖国を離れ、亡命先の広島で被爆したセルゲイ・パルチコフさんの所有のヴァイオリンで、広島で被爆した後、広島女学院で3年の歳月をかけて修復されました。平和への祈りを被爆ヴァイオリンの音色を通じて多くの方々と共有出来ることを願って計画いたしました。

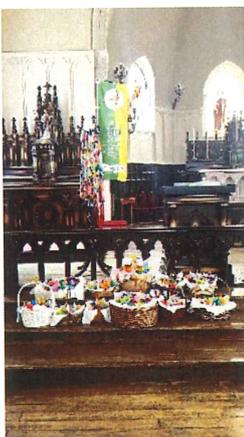
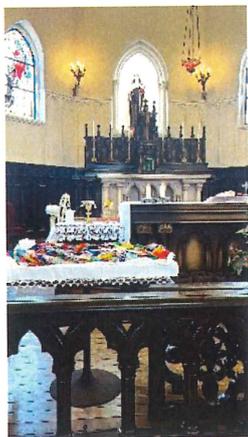
4. 参加者の思いや感想

- ・唯一無二の被爆ヴァイオリンが奏でる音色がお聖堂に響きわたり、平和の祈りをこめての重い響きに、平和を願う気持ちが強められ涙が頬を濡らしました。
- ・名器といわれるストラディバリウスやガルネリでなく被爆ヴァイオリンで弾くからこそ意味あることで深く心に響くものがあると思います。そしてまたスペイン民謡の「鳥の歌」はかつてチェリストのカザルスが国連で鳥たちは peace, peace, peace と鳴くと言って演奏したことを、思い出しながら、何十年経った今もまだなくなる戦禍にこのチェロの哀しみの破片のようにまわりつく音色に切なくつらい気持ちが伝わってくるのはまさに音楽は「万国共通の言葉」を実感しながら聴きました。
- ・改めて平和の尊さを感じる、考えることができ、このような機会を得られたことに聖霊の導きに感謝です。そしてもっと多くの人に被爆ヴァイオリンの音色を聴いてほしいと強く思いました。
- ・聖堂に高く低く紡がれる音色は、祈りでした。
- ・大きな歴史の流れの中で、被爆ヴァイオリンに関わった全ての人の思いと、今ここで被爆ヴァイオリンの透明な音色を聴く私達の思いは、天に向かってのびる平和への道筋だと感じました。神さま、どうぞ私たちの想いを受け止めて下さい。
- ・広島の被災ヴァイオリン今も変わらぬ音色で聞く Bach はお御堂に響きわたり心に染み二度と起こさない被爆への強い願いで大切にされ80年を経た今感極まる思いで聞き入りました。各地で続く紛争が止むことを祈る日々です。
- ・伊東さくらさんが奏でる音楽は、時代をタイムスリップしたようで、広島に原爆が落ちた日を肌で感じるような錯覚にも陥る瞬間がありました。バッハのG線上のアリアは演奏に聞き入りました。同じことを繰り返さないように世界平和を強く願います。



◇阪神地区 夙川ブロック 夙川教会

1. 開催日/場所/参加人数
A 8月3日(日)~17日(日) カトリック夙川教会 聖堂 (千羽鶴)
B 8月3日(日) カトリック夙川教会 ブスケホール 52人(映画会)
2. 企画の具体的な内容
A 千羽鶴奉納 8月3日に奉納。神父さまに灌水していただき、17日まで聖堂に設置。
B ドキュメンタリー映画『8時15分 ヒロシマ 父から娘へ』上映会
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
A 戦後80年という大きな節目にあたる今年、平和への願いと戦没者への慰霊を思い、信徒の皆さんに千羽鶴を折っていただいた。
B 広島で建物疎開のために自宅の屋根瓦をはがしていた一市民である19歳の少年が原爆投下の至近距離で被爆した。原爆投下80年の今年、その壮絶な体験を分かち合い、いのちの大切さ、逆境に打ち勝つ強さ、許すところを持つこと、平和の大切さを深く心に刻むとともに、核廃絶を他人事ではなく、自分たちがかわる問題として真剣に、積極的に取り組む。
4. 参加者の思いや感想
5. 「平和『月間』」としたことについて、ご意見をお聞かせください
・期間が長くなったことで、開催スケジュール調整をやすかった。
・平和月間行事を7月に開催するためには5月19日が申込締切でしたが、その頃は毎年の教会行事の準備中か事後処理中なので、計画する時間が取れません。他教会も人材不足は同じだと思いますので、結局8月に集中するようです。
・以前は、平和旬間行事を地区で行うか、ブロック、小教区だけで行うかを3月の地区宣教評議会で協議して決めていたが、今年は話し合いがなく、コロナ禍以降小教区でしていたので、そのつもりだったが、いきなり地区でもすると報告があった。そのため、行事が倍になり、忙しく、激暑だったこともあり、他の小教区行事に参加することができなかったのが残念です。



◇阪神地区 仁川ブロック 宝塚教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月31日(日) / 宝塚教会 / 約100名

2. 企画の具体的な内容

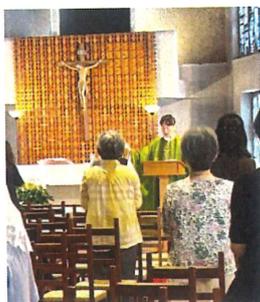
平和月間に合わせて、通常の主日ミサの中に平和祈念の要素を取り入れる形で平和祈念ミサが行われた。共同祈願では国内外の平和を願う祈りが捧げられた。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

誰もが参加しやすい行事になるよう、普段のミサの流れを大きく変えずに行う。祈りの中で、個人の平和だけではなく、世界各地で起こっている紛争や不安に心を寄せる機会を設けることで、信徒一人ひとりが平和を願う意識をあらたにする。小教区では、独自の行事はミサのため、平和月間行事に積極的に参加、信徒の方々へもお声がけを行った。

4. 参加者の思いや感想

参加者からは、「世界で起こっている争い、それにとまなう不安を思うと、平和の尊さを改めて考えさせられる。」「祈りの中に平和への願いを込めることができよかったと思う。」といった声が寄せられた。特に、信仰を通して平和を願う時間を持って、有意義なひと時だったという方も多くおられた。



◇阪神地区 仁川ブロック 仁川教会

1. 開催日/場所/参加人数

平和祈願ミサ：8月9日（土）17時、10日（日）7時、9時（国際ミサ）
仁川教会 / 延べ参加人数・・・231名

2. 企画の具体的な内容

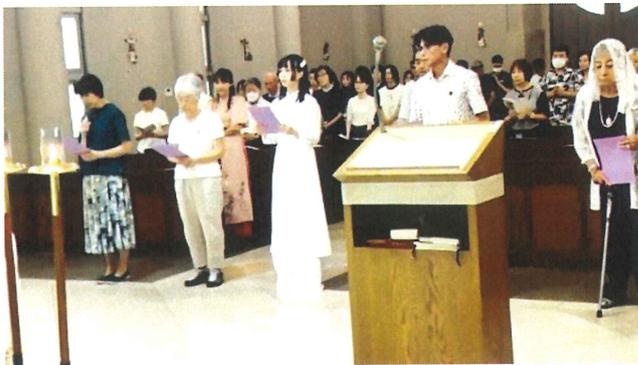
- ・8月6日（水）と8月9日の原爆忌には、原爆投下時に教会の鐘を1分間鳴らし、聖堂内では、原爆犠牲者のために祈り、平和への誓いを新たにしました。
- ・国際ミサでは、共同祈願を日本語、ベトナム語、英語、スペイン語で行った。
- ・7月から、皆さん一日曜学校、青少年委員会（ベトナム青年含む）、修道会一から平和への祈りや思いを書いていただき、ツリーに結び、聖堂内に飾った。平和への祈りを多くの方に書いていただいたので、平和への想いを強く意識されたと思う。

3. 計画するにあたって大切にしたこと（ねらいや目的）

- ・多くの方に平和について、また、平和月間について、関心を持っていただき、平和構築のために自分のできることを考える機会にしてほしい。

4. 参加者の思いや感想

- ・国と国の闘いでも、犠牲になるのは国民・・・「絶対に戦争はダメだ」と戦争の悲惨さを伝えていくのは今在る私たち・・・戦争の悲惨さを伝えなければ・・・
- ・戦争の悲惨さをご存知の方が少なくなっていく…残酷さを忘れないように伝えていく必要を感じる。悲惨さ・残酷さを知らないものが戦争を始める。



国際色豊かな共同祈願



祈りを込めた短冊を聖堂に飾った

◇阪神地区 仁川ブロック 伊丹教会

1. 開催日/場所/参加人数

7月27日(日) / 伊丹教会 / 約150名

2. 企画の具体的な内容

【 平和を求めるミサと歌の集い 】

平和と主の賛美を込めて主日のミサを捧げた。

- ・世代を超えてだれでも歌いやすい曲を選んだ。
- ・平和に関連する聖歌を管弦楽アンサンブルの有志の方々に伴奏頂いて歌唱した。

ミサ後、神戸カンマーコア他有志の方々に賛助頂いた聖歌隊と管弦楽アンサンブルによるパッサ「主よ人の望みの喜びよ」「BWV232/27. Dona nobis pacem」の合唱とアリア独唱を平和と主の賛美の祈りと共に鑑賞する歌の集いを行った。

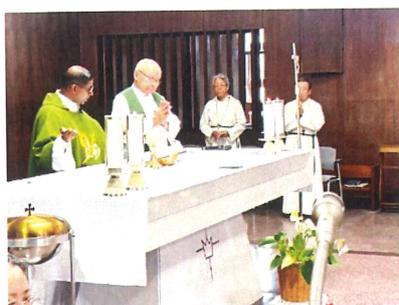
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

より参加しやすい企画として講演会などの聴講イベントではなく、音楽を鑑賞し、平和と主の賛美を祈るイベントとして企画した。

- ・平和の大切さを考え、祈り、何か行動することに気づくこと。
- ・普段教会から遠のいている人がミサに預かること。
- ・音楽活動をしている人がミサに預かること。
- ・「希望の巡礼者」を5月ごろから毎週ミサの中で歌った。

4. 参加者の思いや感想

- ・久しぶりに聖堂が満席になった。
- ・本格的な合唱を聴いて感動した。
- ・初めてミサに参加して普段何気なく歌っているミサ曲の歌詞の素晴らしさに気づいた。
- ・(神父様から)自分の持っている能力や個性を隠さずに発揮することが大切。
- ・いつものミサはオルガン伴奏のみゆえ、荘厳な管弦楽アンサンブル伴奏による聖歌歌唱は、平和と主の賛美の祈りを後押しする、素晴らしい体験でした。平和月間に限らず機会を持ってほしいとの声も聞かれました。



◇阪神地区 尼崎ブロック 武庫之荘教会

1. 開催日/場所/参加人数

7月20日(日)10時40分～ / 武庫之荘教会 / ミサ90人 平和旬間50人

2. 企画の具体的な内容

▶平和旬間ミサ

ミサ中、手織り折り鶴奉納 諏訪司教様 ギター伴奏での、テゼの祈り。

▶ミサ後、グエン・フィ氏(園田教会信徒)による『ベトナム難民移住 50年に際し、今後の移民問題に関して』講演会→質疑応答

その後、(平和のテーマ)の分かち合いのお茶会。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

負の歴史は繰り返さない為にも、過去を伝えそして今、存在している私達が、国籍、人種、民族、肌の色関係無く、神様がお創りになった、誰しもが一匹の子羊でしか無いという謙虚な気持ちで、言葉、行いで日々、福音を述べ伝える事が出来れば、の思いです。

4. 参加者の思いや感想

ミサ中に、諏訪司教様が語られた中に、フランス人作家、ジャック・アタリの本『21世紀の歴史』の中から、いずれ世界を支配するのは、経済、多国籍企業、こうなると世界は無秩序となり、やがて争いが起こり、難民が増えるだろうと、そうなると人々の心は悲しみしか残らない、けどその後に人々は気づき、他者を思いやる気持ち、前に進もうとの思い、その時必要なのは福音だと、司教様は、おっしゃいました。勿論、戦争や崩壊等起こさず、一つになり、福音と共に、歩いて行けたらと思いました。



◇阪神地区 尼崎ブロック 園田教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月3日(日) / 園田教会 / 約50名

2. 企画の具体的な内容

プロジェクター使用した紙芝居を、子供達の朗読で行なった。紙芝居の題材は「すべては神様が創られた」(文:奥田知志、絵:黒田征太郎)

平和祈願ミサで、皆さんで折った千羽鶴を奉納した。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

昨年同様、子供から大人まで平和の大切さを理解できるよう、紙芝居を使用した。

冒頭司会者から、諸説はあるが、長い人類の歴史の中で戦争をしていない期間は、たった100年しかないといわれている。ならば「戦争の魅力」を考えたが失うものばかりで、何も無い。それを踏まえて平和を考えて下さいとの導入があった。

4. 参加者の思いや感想

子供達が昨年に引き続き、朗読を上手にした。

平和の大切さが伝わってきた。



◇阪神地区 尼崎ブロック 尼崎教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月10日(日) / 尼崎教会 / 約90名

2. 企画の具体的な内容

平和月間の行事の一つとして日曜日のミサの前に平和に関する短いビデオを鑑賞した。ビデオのタイトルは「クリスマス休戦」。内容は、第一次世界大戦中の1914年12月24日から12月25日にかけて西部戦線各地で一時的な停戦状態が生じ、この日、最前線で対峙していたドイツとイギリスの兵士たちが共にクリスマスを祝ったことを再現した実写ビデオ。また、共同祈願では日曜学校、敬老会、ポルトガル語ミサ代表による祈願を行った。そしてミサの最後に日曜学校のメンバーたちによるコーラス「小さな羊」を披露した。

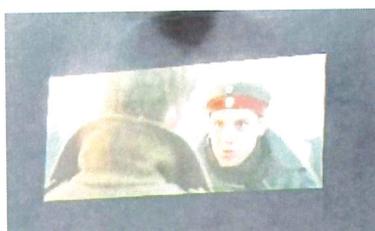
3. 計画するにあたって大切にしたこと（ねらいや目的）

戦争に関するビデオを鑑賞し、戦争とは何か、平和とは何かを今一度見つめなおし、世界中の戦争や紛争の犠牲となった人々、あるいは戦いや貧困、飢餓などで苦しみや悲しみの中にいる人々のために平和を祈念することを改めて誓った。

4. 参加者の思いや感想

ミサ前のビデオ上映では、皆が熱心にビデオを鑑賞し、日本では認知度の低い「クリスマス休戦」での兵士たちの思いを目の当たりにして、戦争と平和について改めて考える機会が与えられた。

平和祈願ミサに参加し、コーラス「小さな羊」を披露してくれた子供たちからは、「今日のミサのお祈りが神様に届いて、戦争がなく、みんなが笑顔で過ごせる平和な世界になるようにねがっています」や「コーラスで歌う時に緊張したが、みんなの笑顔が見ることができて嬉しかった」という感想を得た。



◇ 北摂地区 北摂西ブロック 池田教会

1. 開催日/場所/参加人数
8月3日/池田教会カール記念館/50名
2. 企画の具体的な内容
終戦とともに始まった少女の記録(旧満州からの帰国)
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
戦争がもたらした様々な悲しみや苦しみ
不戦の誓い
4. 参加者の思いや感想
旧満州のことは知らなかった。もしも自分の身に起こっていたら、と考えさせられる。
やはり戦争はだめ



池田教会

◇ 北摂地区 北摂東ブロック 千里ニュータウン教会

1. 開催日/場所/参加人数
 - ① 8月10日(日) ミサ
 - ② 8月10日(日) ミサ後 みんなで聖歌を歌った
 - ③ 8月3日(日) 10日(日) ミサ後 食堂でモーツァルトのCDを流した
2. 企画の具体的な内容
 - ① 平和祈願ミサ
 - ② 平和を祈りながら聖歌「ごらんよ空の鳥」を歌った
(国難の中にある人の心をとどけるため)
 - ③ モーツァルトは心の癒し効果があるので食堂で BGMとして流した
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
 - ・家庭、学校、職場、様々な共同体において「主の平和を生きる」ことを大切にする。
 - ・平和旬間のミサにおいて世界の平和を祈る。
 - ・私たちの心をまず平和にする
4. 参加者の思いや感想
 - ・今年は戦後80年の年であり新聞やテレビの報道に触れて色々考えさせられていた中お聖堂で皆さんと共に聖歌を歌うことによって神様と一つになったように感じた。
 - ・ミサ後、自分で「ごらんよ空の鳥」を歌うことによって神様と一緒に平和を願うことができた。



千里ニュータウン教会

◇北摂地区 北摂西ブロック 日生中央教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月17日(日) 9:30~ / 日生中央教会 / 55名参加

2. 企画の具体的な内容

- ① 「キリストの平和」を手話で合唱
- ② 「父ちゃん母ちゃん生きるんや」～大阪西成こどもの里～DVD上映
- ③ 「あなたのへいわの」合唱
- ④ 平和祈願ミサ
- ⑤ 他、平和のための祈りの花束(口ザリオの祈り)と平和祈願の葉の作成

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

私たちが支援している「こどもの里」について、より深く理解する事が出来、これからも皆が心を合わせて支援を継続していくことができるように。

4. 参加者の思いや感想

- ・「こどもの里」について知る事、感じる事ができとても良かった。子どもが親を思う気持ちも、親がわが子を思う気持ちも尊いもの。今、世界で起っている戦争や紛争はその尊い心を打ち砕いている。私たちは、平和と人々の幸せをもっと祈り、又、身近な方々への支援を続けなければならないと思った。
- ・苦労や困難を経験し、そこで人のやさしさや愛に支えられた子どもたちは、人生を大切に生きる事ができると思う。「こどもの里」の役割はとても重要。ほんの小さな支えですが、これからも継続していきたい。
- ・子どもたちが自立するまでの長きにわたり、心身ともに寄り添い支援をされている様子がよくわかり感動した。又、支援されなければ生きていけない子どもたちがいる日本は、果たして本当に“平和な国”といえるのだろうか?と考えさせられた。



◇北摂地区 北摂西ブロック 箕面教会

1. 開催日/場所/参加人数

6月29日(日)/カトリック箕面教会 主聖堂/100名

2. 企画の具体的な内容

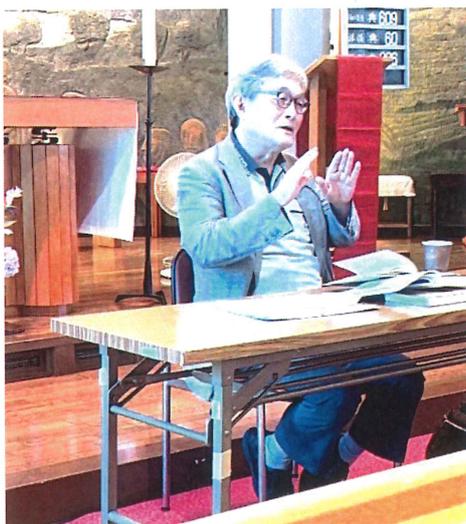
平和月間の活動を深めるために、「寅さんとイエス」の著者であるドミニコ会の米田彰男神父様をお招きし、多くの方が親しんでいる映画「男はつらいよ」シリーズを題材に、寅さんとイエスの生き方の共通点についてご指導頂きます。それに先立って、「男はつらいよ」の勉強会も開催しました。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

私たちの身近なところから、具体的に平和とは何か、どんな行いや考え方が平和を生み出すのか、平和のためにどんなことができるのかを学び考え、一人一人が行動に移すきっかけを得ることを目的とします。ちょっとした他人に対する先入観、差別意識が戦争に発展していくことを意識し、知らず知らずのうちにそのような考えに陥らないヒントを得ることができればと考えております。

4. 参加者の思いや感想

初めは、破天荒な寅さんと聖書に描かれるイエス様が似ているとは、なかなかイメージできませんでした。米田神父様にご指導いただく中で、私たちが知らず知らずのうちに人間の価値観で美化してしまっているイエス像ではなく、マルコ福音書に記されている、当時の常識を超えて弱者と共にあるイエス様に近づくことができました。寅さんとの対比の中で、より自分たちの日常のこととして福音を生き、平和な世の中を実現していくために身近で取組めることを考えるきっかけとなりました。



◇北摂地区 北摂東ブロック 高槻教会

1. 開催日/場所/参加人数

7月6日(日) / 高槻教会信徒会館 / 30名
7月20日(日) / 高槻教会信徒会館 / 24名

2. 企画の具体的な内容

7/6 「海外生活を通してステレオタイプについて考える」
プレゼンターの中国・韓国留学経験から見えてきた価値観について話してもらい質疑応答で分かち合う
7/20 「犯罪と社会～新しい刑罰の導入と社会復帰支援～」
6月より導入された「拘禁刑」についての内容とその成り立ち、実際の問題などについて話してもらい、質疑応答で分かち合う

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

- ・通常開催している「社活カフェ」の一環とし、普段あまり考えることのないものを知る機会とする
- ・できるだけ参加者にも関わってもらえるようにする(発言/アンケートで意志表示)
- ・リラックスした雰囲気の中で楽しく参加してもらえるようにする

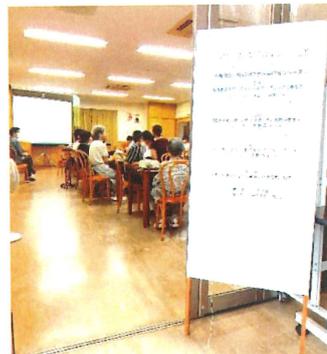
4. 参加者の思いや感想(抜粋)

〈7/6〉

- ・大変興味深かった。自国の戦争の歴史はしっかりと知識として身につけていかなければならないと思った。
- ・身近な経験から興味を発展させて今の学びにつながり研究されているのがよくわかった。
- ・偏見について真剣に考えられていて、希望を持てる話だった。
- ・現実的には微妙なやりとりのある国家間で若い世代による将来へ向けての交流へと発展することを願ってやまない。

〈7/20〉

- ・普段気につけないテーマだったが、考える機会に恵まれた。どこにいても人間関係が深いテーマだと思った。
- ・大変勉強になった。若い人達の「改善更生」には関心を持ち続けたいと思った。
- ・「受刑者と自分はたまたま生まれ育った環境が違っただけで紙一重」という思いが心に残る。拘禁刑の導入によって受刑者が再び「生き直す」ことができる社会になることを願う。今回の話をまずは身近な人々と共有していくことから始めたい。
- ・「犯罪と社会」が身近な内容となった。今後は社会復帰について再び話し合いの場を持ちたい。



◇北摂地区 北摂東ブロック 高槻教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月3日(日) / 高槻教会信徒会館 / 25名
8月24日(日) / 高槻教会信徒会館 / 31名

2. 企画の具体的な内容

8/3 「一匹の迷える羊に関わるということ」
残された99匹はどうなるのだろうか？聖書のたとえ話を通して、新聞記事のコラムを引用し、日々出会う人たちとどう関わっていけばいいのか、グループ別に分かち合い考える
8/24 「希望と平和の巡礼～青年の祝祭に参加して～」
聖年の公式巡礼団に参加した青年の報告を聞き、質疑応答で分かち合う

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

- ・通常開催している「社活カフェ」の一環とし、普段あまり考えることのないものを知る機会とする
- ・できるだけ参加者にも関わってもらえるようにする(発言/アンケートで意志表示)
- ・リラックスした雰囲気できらびやかに参加してもらえるようにする

4. 参加者の思いや感想(抜粋)

〈8/3〉

- ・色々な方の考え方、とらえ方を分かち合ってもらえとてもいい学びになった。
- ・羊飼いに置いてけぼりにされた99匹の羊が「ずるい」と感じるとすれば、それは放蕩息子の兄が「弟はずるい」と言ったのと同じだと思う。自分がすでに愛されていることをしっかり理解することによって、どの人をも愛し、どの人をも赦すことができるようになるのだと思う。
- ・どのような人も大切にするという神さまの無限の愛を感じ、私達もそれに近づいていかなければいけないと感じた

〈8/24〉

- ・青年の信仰を大人たちが育むことの喜びを感じた。今回灯された信仰の炎がいつまでも力強く輝き続けますように。
- ・写真がたくさんありよくわかった。キリスト教が社会の中で少数ではないという環境を体験したことの意味について考えたという話がとても興味深かった。希望を感じることができた。
- ・「信仰に希望を置く人達の群」との出会いをとおして、これからの人生、自分なりの信仰の道を見つけ歩んでいってほしい。
- ・日本のカトリックの青年達が世界の青年達と出会い、より信仰が深められ日本の教会を若者の力で活性化させていってほしい。



◇北摂地区 北摂東ブロック 茨木教会

1. 開催日/場所/参加人数
8月17日/カトリック茨木教会
参加人数: ロザリオの祈り 35名 平和祈願ミサ 80名
2. 企画の具体的な内容
平和月間を意向としてロザリオの祈りを捧げ、また平和祈願ミサを行う
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
平和月間行事の趣旨との整合性
カトリック教会らしさ
参加し易さ
4. 参加者の思いや感想
久しぶりにロザリオの祈りを捧げ良かった
という意見を多くいただいた。



◇北摂地区 北摂東ブロック 吹田教会

1. 開催日/場所/参加人数
8月10日(日) / 吹田教会聖堂 / 約50名
2. 企画の具体的な内容
・平和祈願ミサ
・詩の朗読 高田敏子さんの詩「夕焼け」の朗読
・歌 ①水のこころ ②ありがとうのうた ③上を向いてあるこう ④アーメンハレルヤ
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
・みんなが楽しめて少しでも幸せを感じて頂けたらと思い企画しました。
・戦争で亡くなった人や生きて戻れたけど苦しい人生を歩んだ人たちの犠牲のうえに私たちの平和や幸せがあるのだと感じることができました。
4. 参加者の思いや感想
この企画は、初めてさせていただいたのですが、音楽はみんなを一つにしてくれるのでとても良かったです。



◇大阪北地区 梅田ブロック 大阪梅田教会

1. 開催日/場所/参加人数
7月17日(木) / サクラファミリア 大阪梅田教会 / 約25名
2. 企画の具体的な内容
毎月サクラファミリアが開催している『祈りのよる』に共同参加
特に世界平和のために祈る
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
世界共通語ともいえる音楽、歌の力を取入れたテゼの祈りの中で、
世界平和への願い、祈りを皆さんと共有することを目指した。
(昨年も平和旬間行事として開催し、温かな良い時間を過ごすことが
できたので、継続して行なっていければ良いと感じた。)

4. 参加者の思いや感想

- ・下瀬神父さまがテゼ共同体の始まり、背景について最初にお話して下さい、テゼの祈りがキリスト教の和解と一致を祈る共同体としてスタートした事を教えて頂きました。カトリックやプロテスタント、色々な宗派や教派を超えて、世界中からテゼ共同体に集まる若者たちのように、私たち一人ひとりも神さまと静かに向き合う、平和を祈る良い時間を共有できたと感じました。
- ・祈りの力、歌の力がこんなにも大きなものであると再確認しました。途中で感情が高ぶり、涙が出そうになりました。
- ・世界中がテゼの歌に包まれてしまえば良いのになあと感じました。

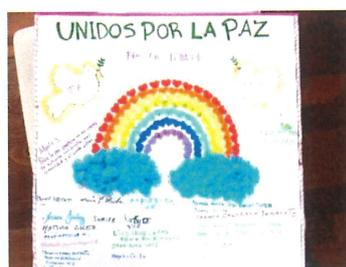


-
1. 開催日/場所/参加人数
8月3日(日) 12:30~ / サクラファミリア 2階会議室 / 約25名
8月17日(日) 11:00~ / 大阪梅田教会聖堂 / 約160名
 2. 企画の具体的な内容
8月3日(日)戦後80年『あの日の話を聴こう!』
被爆体験者 中島敦美さん(大阪梅田教会信者 広島出身)
東賢次さん(豊中市在住被爆者 長崎出身)
8月17日(日)平和祈願ミサ 平和月間中に書いて頂いた平和メッセージを奉納
英語ミサでは平和に関するYouTubeの鑑賞会実施
スペイン語ミサでは、信者の一人がイエズス会黙想会での内容を講演(平和の色紙を奉納)
 3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
戦後80年を迎える節目の年なので、きちんと戦争と平和について向き合う必要があると感じました。暗い話題である戦争について避けることなく、一人ひとりがその悲惨な過去を知り、感じ、そこから自分が行動できることを今こそ見つけていくべきなのだろうと思います。教会の信徒の中に、広島江田島出身の91歳の方がいらっしゃり、お元気に教会に来られている間に、ぜひご自身の体験を皆さんの前で話して頂こうと思立ちました。また、長崎被爆者の

信者の方からのご紹介で、豊中市在住で原爆や空襲等の説明講演会など、平和活動に関わっておられる 82 歳の方をお招きできる機会も得ました。核戦争が起こりうる危うい世界に対し、私たちはどう行動していくのか考えるきっかけを掴めればと思い、企画致しました。

4. 参加者の思いや感想

- ・会の進行が堅苦しくなくて良かった。
- ・戦争の怖さを感じた。状況で軍が出てきて色々制限するというのも何処の国も変わらないと改めて感じた。今の時代でも、黙り込むのが卑怯になると思った。今の赤ちゃん、小学生、中学生、高校生の為にも、今できることをやっていきたい。
- ・『戦争は絶対にしちやダメ!』という思いを改めて強く持ちました。
- ・戦時中の配給が無料で支給される物なのだと思っていたが、有料だとは知らなかった。田舎の方にわずかな食料を求めて、物々交換しに来ていたそうで、おばあさんが、機転を利かせて中に小さなお芋を隠して葉っぱのついたツルで巻き、外からお芋が見えないように人に渡してあげていた話を聞いて、人の温かさを感じる事ができた。
- ・ちょうど映画『長崎』を観てきたばかりなので、2 人の話が心にとっても響いた。
- ・広島に原爆が落とされる一週間程前に、アメリカ軍が作成したものと思われる。『広島は安全な場所だから、広島に移動するように』といった内容のビラが空からばら撒かれたといった内容は、これまでで初めて聞いた。貴重な話を聞けたと思う。
- ・戦時中をたくましく乗り越えてこられた生き様を尊敬する。小さな子どもだったとはいえ、目の前で川に浮かんだ死体の山を見た時、水を求めていた死にそんな人を見た時、自分だったら受け止められず、気が狂ったようになってしまうかもしれないと思った。
- ・子どもで無邪気に、対岸の呉が爆撃されているのを観て、『きれいなー』と思ったという話は衝撃だった。まさに“対岸の火事”…人は、自分に直接危害が及ばない限り、どんな危機下にあっても、自分事として捉えられないのだということを教えられた気がする。
- ・被爆しボロボロになった叔母さまが、亡くなる前に敗戦を知らされた時、『嘘やろ?』と日本の負けを信じられなかった話には胸を締め付けられた。今と違って情報チャンネルが少ない中で、国土が破壊され、自分の命が奪われる時になってもなお、日本の勝利、正義を信じこまされていたなんて、恐ろしいとしか言えない。私たちはこれからいっそう命の尊さとそれをないがしろにする戦争という愚かな選択を二度としない決意を新たにして、平和を祈り続けていかなければいけないのだと思った。
- ・原爆後、防空壕に入りかけた女性の脚を引っ張り、引きずり出そうとしたら、脚の皮膚がずるりと剥けたとのお話もあった。一瞬にして人の命や生活を奪い、その後の人生を狂わせてしまった原爆、戦争…言葉ありません。二度と過ちを繰り返さないようにしなくてはならない。
- ・戦争に正義や勝利などありません。最後に残るのは悲しみや苦しみです。そして、普段の生活においても、自己中心的な考えや思いに陥らないように心掛けなければと改めて思いました。



◇大阪北地区 梅田ブロック 関目教会

1. 開催日/場所/参加人数

7/20(日), 27(日), 8/3(日), 10(日), 15(金)
カトリック関目教会 / 10-40名

2. 企画の具体的な内容:

- ・峠三吉の原爆詩集の朗読(ミサが始まる前の9時15分に原爆詩集の一編を7/20 7/27 8/3 8/10の4週連続朗読する)
- ・8月10日ミサが終わってすぐに平和の集いを行う、峠三吉の原爆詩集を朗読するにあたっての経緯と短い詩集の朗読、お祈りと聖歌を交えて20分位のフィナーレ、原爆詩集を聞いての感想を小さな紙に書いてもらって祈りの花束にする
- ・8月15日聖母の被昇天の日、終戦記念日として教会の入口のルルドのマリア様に集まり、お告げの祈り、平和の祈りを唱えて平和の鐘を鳴らす

3. 計画するにあたって大切にしたこと

- ・戦後80年の節目にあたりもう一度原爆の事を考えてみようという事
- ・社会活動委員の一人から峠三吉の原爆詩集を熱く語られ彼の意思を尊重した
- ・去年も聖母被昇天の日にルルドのマリア様に集まり平和の鐘を鳴らしたので、今年も是非平和を祈りたかった

4. 参加者の思いや感想

- ・原爆詩集という重いテーマにもかかわらず朗読を聞いて頂き朗読後しばしの黙想があった事は非常によかったと思いました
- ・去年に引き続き被昇天の日に教会の外から平和団体の御婦人14名がルルドのマリア様にお祈りを捧げてくださいました、これも大変よかったです、何か達成感を感じました。



◇大阪北地区 しろきたブロック 今市教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月3日(日) / 今市教会 1階ホール / 25名

8月15日(日) / 今市教会 / 51名

2. 企画の具体的な内容

<原爆短編映画上映会>

[ナガサキの少年少女たち]

原爆投下前の社会状況から、原爆投下により長崎の町が破壊された状態、被爆した少年少女たちが、その後、被爆者の国家補償や原水爆禁止活動を始めるまでの記録映画

[つるにのって]

小学6年生のとも子が原爆の悲惨さを知りショックを受けるところから、世界で原爆禁止活動が行われている事を知って元気を取り戻すまでのアニメーション映画

<聖母被昇天ミサ(平和祈願ミサ)> 平和祈願の奉納を行った

祈願用として、原爆写真を23枚使用してパネルを作成し平和祈願のイメージを作った

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

- ・今年(2023年)は戦後及び原爆被災80年であること。
- ・二度とこのような悲劇を起こさない為に当時の状況を振り返り、平和への思いを新たにす
- ・平和への思いや願いを「平和祈願」として奉納する

4. 参加者の思いや感想

- ・長崎と広島(2023年)の2つの原爆短編映画で、どちらかに内容が偏らないことが良かった。
- ・当時の世界情勢や当時の状況が分かった。
- ・80年前に原爆によって、子供たちが残酷に亡くなり、また今迄苦しみを抱えて生きてこられた方々を思い、私たちは次世代まで伝えて、決して風化させてはならない。
- ・いつの時代も平和でありたいと願わずにはいられません。
- ・空襲で死んだ人はどうなる？
- ・しみじみ戦争責任の重さを感じ、命の重み、平和の願いを改めて感じた
- ・平和であることを感謝



原爆短編映画上映会の模様



平和祈願ミサに奉納する「平和祈願」

大阪北地区 しろきたブロック カトリック大東教会

1. 開催日/場所/参加人数

2025年8月10日(日)ミサ後 11時～13時30分 カトリック大東教会 21名

2. 企画の具体的な内容

サブテーマ:「命に格差はない」～あなたは「無料低額診療事業制度」を知っていますか?～
講師:長谷川嘉美さん(大東教会信徒)*この制度の実施医療機関の医療生協で仕事されている。

プログラム

a.講話:無料低額診療事業制度とは? 医療生協での実態と体験、相談・申込先について

b.グループでの討議:3グループに分かれて講話で感じたことなどを話し合った

c.茶話会:お茶菓子でフリートーク

共同祈願:8月15日(金)聖母の被昇天ミサの共同祈願でグループ討議の内容から「お祈り文」を作成して、大東教会共同体としてお祈りした。

〈祈り文〉

八月十日に開催した大東教会の平和旬間行事は「無料低額診療事業」の制度について学習しました。日本人や外国人の方の中に病気になっても、お金が無くて医療にかかれない人達がおられます。このような方々のために、この診療事業の制度があります。イエス・キリストは私たちに、「善きサマリア人のたとえ」をして教えてください。命に格差はありません。大東教会の私たちは、一人ひとりの命が大切にされる社会を目指し、情報収集のアンテナを高くして、支援に取り組んでいけるように、神の豊かなお恵みを大東教会共同体に注いでくださいますように。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

・神から受けた私たち一人ひとりの命を大切にすることと実践を新たにすること。

・「無料低額診療事業制度」を知ることによって、私たちの周りの日本に在住の方でお金が無い方などで医者にかかれない方々のための制度を知る。

・「無料低額診療事業」は不完全であり取り組む医療機関は極端に少ない。しかしなお今、政府から聞こえてくるのは、命を守るための社会保障制度を充実させて欲しいという願いと裏腹に削減を検討することばかりです。安心して治療を受けることが難しい社会になっていこうとしています。一方では、防衛費は膨らむ一方です。私達より弱い人たちを攻撃し、その憎しみが撒き散らされ、その憎しみに熱狂する現象が起きています。そうした熱狂の先には、命を奪い合う戦争を許す社会が待っています。それは先の大戦に学ぶことが出来ます。私達は、命に格差はなく一人ひとりが大切にされる社会を目指して、今私達が出来ることに取り組んでいきましょう。

4.参加者の思いや感想(抜粋)

- ・貧しい方の支援については、生活保護制度があるのは知っているが「無料低額診療事業」の制度があるのは、知らなかったので、とても良い制度のお話しが聞けて良かった。(ほとんどの方が知らなかった)
- ・病気になっても医療を受けられない方に出会ったとき、カトリックの信徒である私たちは、何をしてあげられるかということである。電話番号を教えるだけでなく、教会共同体としての係わりも必要では。
- ・大東教会が支援している仮放免のミャンマーのミヨウさんもこの制度を利用しているが、仮放免の方は、収入を得る仕事に就けない・県外などに移動するにも役所の許可がいるなど、お金が稼げないのにどのようにして生活したらいいのか。支援者・協力者の援助に頼るしかない。人間の生存権の問題であり国の制度の改定を早急に望む。
- ・大東教会もベトナムの方が多くおられるが、コミュニケーションが不足している。同じ共同体として、ベトナムの方ともっと親しくなり悩みなどもフランクに話せるようにしたいと思っている。



◇大阪北地区 河北ブロック 香里教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月10日(日)/カトリック香里教会・聖堂
平和祈願ミサ 84名・上映会 41名



2. 企画の具体的な内容

「決断～運命を変えた 3.11 母子避難～」(国境なきドキュメンタリー国際映画祭受賞)の上映
カトリック松山教会あてミャンマー支援の募金

障害者自立支援の事業所「クッキー工房おれんじはうす」の物販機会提供

- ・国を挙げての復興アピールの陰に隠され時間とともに忘れ去られようとしている今こそ世間の無理解の犠牲となってきた自主避難者たちの抵抗の声を届けたいと思いました。
- ・シナピスニュースレター6月号掲載のミャンマー事情に心を痛めています。クーデター後の長引く内戦に追い打ちをかける震災の被害に対し少しでも助けになればと願っています。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

- ・毎月一回の福島支援の募金の機会などを通して信徒の皆さまになじみ深いテーマとして、またタイムリーかつ忘れられがちなテーマとして、活動に熱心な委員様からの推薦を受けて決めました。早い時期からの準備により余裕を持ってチラシ活動(教会の周囲への貼りだし、自治会の掲示板への掲出、信者への配布、知人への拡散)や広報(教会ホームページ、教会機関紙、配給会社フェイスブックなど)をすることができました。
- ・映画中で証言する10組の家族の境遇をどこか遠い地域の人々のことと考えるのではなく、かのサマリア人に倣い自身の隣人として見るができるかという観点でご覧いただきたいと紹介しました。

4. 参加者の思いや感想

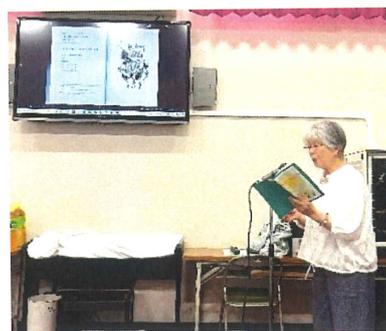
- ・過去の悔しさで片付く話ではなく家族の一人一人の将来に禍根を残す、この実態について、このような人々の存在からして、まだまだ知らないことが多く問題から目をそらしてはいけないと思いました。
- ・原子力のない地を求めての想像を絶する決断に、私たちが平和に暮らせることがいかにありがたいことなのかときづかされました。
- ・出演者それぞれの勝ち取ってきた日常に一言では表せない人間味を感じました。
- ・原発事故さえなければ手放すことがなかっただろう幸せをせめてもの思いで取り戻そうと健気に奮闘する家族の姿に頭がさがります。それに対する国の薄情さは本当に理解できません。
- ・自主避難の方々の労苦に思いを馳せ福島イノベコーストや新規建設に異議申し立てをしていきたい。
- ・勝手に避難をしていつまでも被害者ぶるのは都合が良すぎるという風評に立ち向かっている親子の記録に心が痛みました。善きサマリア人の例え話が重なりました。私たちの周りには追剥に襲われた無数の人がいるのに司祭やレビ人のように見て見ぬふりをしているのではないかと問いかけられました。原子力は安全だと必死に思い込ませようとしているマスコミや国や東京電力に怒りを感じます。

◇大阪北地区 河北ブロック 枚方教会

1. 開催日/場所/参加人数
8月10日/ 集会の家 ピアノの部屋 / 35人参加(途中退席含む)
(他、8月6日~10日 ロザリオリレー)
2. 企画の具体的な内容
絵本「新・戦争のつくりかた」(2014年版。りぼんぷろじえくと)朗読・映写。分かち合い。
茶話会。
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
戦争を語ることは比較的容易であるが、平和は各人のイメージの違いが大きく、話しにくい面がある。
分かち合いをイベントとして「成功」させないという成功を狙う難しさはあるが、スタディーサークルを意識し、分かち合い形式にとらわれず、「おしゃべりの場」に近づける。
知的情報として処理するのではなく、体感・生活の場でのシグナルを受け止められることが望ましい。
まとめ・発表はせず(表面的な結論を求めず)、思い・考え、もやもやを持ち帰り、各自で温め、それぞれの場、それぞれの時に周囲と分かち合ってもらおうことを狙う。
4. 参加者の思いや感想
話し合われたことの概要
戦争の時、終戦前後の体験から今の世界、あり方を語る人がいた。
自分の体験、家族の話、今の生活で気づいたことを語る人がいた。
生活の場からの話と共に、国家とは何か、共同体とは何かを考える人がいた。
核の問題、日本の核についての話もあった。

結果

1時間を超えても熱心に話し合いを続けるグループがある一方、40分経過時点で茶話会、雑談に切り替えたグループもあった
一方、この分かち合い、茶話会を通じて、「普段、自分の思いを語る場が少ないので、話しができた」と喜ぶ人達もいた。



◇ 大阪南地区 阿倍野ブロック 大阪田辺教会

1. 開催日/場所/参加人数

7月6日(日) / 大阪田辺教会聖堂 / 参加人数30名

2. 企画の具体的な内容

・平和祈願ミサ

・上映会 ドキュメンタリー映画

荒野に希望の灯をともし ～医師・中村哲 現地活動35年の軌跡～

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

今もなお、全世界で平和が脅かされ、多くの苦しむ人悲しむ人がいる現状にあって、アフガニスタン、パキスタンで病や戦乱、そして干ばつに苦しむ人々のために35年にわたり活動を続けた医師・中村哲氏の活動において特筆すべきことは、その長さだけでなく、支援の姿勢がまったくぶれることなく一貫していたことであり、今も65万人の命を支えている。

しかし、中村医師は用水路建設現場に向かう途中、何者かの凶弾に倒れた。その突然の死は、多くの人々に深い悲しみをもたらした。中村医師が命を賭して遺したものを、目指していたものに思いを馳せ、平和の尊さを多くの人に伝えていきたい。

4. 参加者の思いや感想

- ・中村哲医師については、漠然と知ってはいたが、ドキュメンタリー映画を観ることによって、たいへん感動することができた。多くの難民を率先して支え続けられた行動力には、神様の力も働いていたことと思う。
- ・自然を無視した生き方は、人間の生命を維持していく妨げとなり、本来の在り方は、自然の恵みを受けることに感謝し、人々と協力することによって、築き上げられていくものだということを確信することができた。
- ・中村医師が、ご自分の最愛の息子さんを亡くされたことは、どんなにお辛かったことかと言葉を失う思いであり、ご自身も凶弾に倒られたことは、たいへん悲しむべきことであるが、偉業を成し遂げられた今、息子さんとの再会を喜んでおられることと思う。
- ・ドキュメンタリー映画の最後で、アフガニスタンの子どもたちの笑顔、笑い声が印象に残った。



◇ 大阪南地区 阿倍野ブロック 平野教会

1. 開催日 / 場所 / 参加人数
8月10日(日) / 平野教会聖堂 / 7~80名



2. 企画の具体的な内容

< 平和祈願ミサ >

- ・共同祈願や聖歌の選曲等を多くの人に関わって相談してミサの準備をする。
- ・共同祈願を日本語 英語 フランス語 ベトナム語で唱える
一祈りの内容が共有できるように各言語の祈りを翻訳しプリントにした
- ・ミサ中の聖歌の日本語の歌を ベトナム語 フランス語に翻訳
- ・閉祭の歌「希望の巡礼者」の各言語の楽譜を用意し 繰返しは4言語で、詩編が1言語で歌われる間は耳を傾けるという歌い方をした(事前に2回練習)

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

- ・信徒どうしのつながりが深くなるように 準備期間を大事にした

4. 参加者の思いや感想

- ・違う言語で同じ歌(希望の巡礼者)を全員で歌う力強さに感動した
- ・全員で ミサを捧げた一致感を感じた

◇ 大阪南地区 阿倍野ブロック 藤井寺教会

1. 開催日/場所/参加人数
8月10日(日) / カトリック藤井寺幼稚園ホール / 30名



2. 企画の具体的な内容

一般の会衆の皆さんに平和についての共同祈願作成を募りそれを8/10のミサの中で皆で心を合わせお祈りした。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

特定の役員が祈願文を作成するのではなく、会衆の方々に声掛けし、祈願文を作成していただくことで皆で反戦や平和についての思いを共有できるようにした。

4. 参加者の思いや感想

昨今、世界では実際に戦争状態にある国々があり、大国の為政者達のふるまいや言動により世界戦争の危機が叫ばれています。
皆さんそのような世界情勢に大変な憂いを持たれていました。

◇大阪南地区 堺ブロック 堺教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月24日(日) / 堺教会 聖堂およびロビー / 約90名参加

2. 企画の具体的な内容

- ・今回の平和行事は「アジア・太平洋地域戦争犠牲者2000万人一人ひとりの冥福を祈る会」の皆さんと社会活動委員の皆さんを中心に企画・運営を行った。
- ・名古屋教区松浦悟郎司教様を招き10時より平和祈願ミサを行った。(事前に教会の皆さんに書いていただいた平和へのメッセージを奉納。) ミサ後、松浦司教様による講演会を聖堂で行った。
- ・講演会后に昼食をはさみ、ロビーにて参加者が感想を述べたり松浦司教様への質疑をする交流会を行った。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

戦後80年の節目にあたり、あらためて不戦を誓い平和を切実に求めなければならない状況が相次いでいる。戦争を経験した方々が少なくなる中で、再び戦争を起こすことなく平和を保つために何が必要なかを考える機会も減っている。キリスト者として平和を求める私たちが、今できることは何かを考え、行動に移すきっかけがほしい。そのために、平和について様々な場で発信を続けておられる松浦悟郎司教様をお迎えし、多様な可能性をいただこうという思いで企画された。平和を守っていくために自分にできることを見つける機会になるようお願い、テーマを「今、平和ですか? ―キリスト者として、何を考え、何をすべきか―」とした。

4. 参加者の思いや感想

松浦司教様の講演会后にアンケートを書いていた。その内容を一部紹介する。

○日本が80年間戦争をしなかった3つの理由の一つ一つが納得。

- ・学校や市民グループが子どもたちに必死で伝えていた
- ・アジアが今までの日本の歴史を見ていて厳しい眼を向けている
- ・憲法9条に守られている

○日本の憲法が、80年戦争をせずにきたことに大きく貢献している。常に互いに「平和」を大切に生きる心がまえが大切であり、その努力が大切。

- ・「ファースト」に危機感をもっている。自分さえよければ・・・というふうに聞こえる。弱い人、困っている人とのように手を結んで歩めるかが課題。
- ・人生の選択に迷った時に貧しい人たちを助けられるのはどちらかを考えると良いということが非常にためになった。
- ・現実とギャップがあっても平和な世界の理想を追い求める選択を取りたい。
- ・身近で分断をしないよう、苦手な人とも理解をしようと思う。
- ・人と人をつなげる為のことは、小さいことからでもできると確信している。



◇大阪南地区 堺ブロック 泉北教会

1.開催日／場所／参加人数

8月17日(日) / 泉北教会聖堂 / 25名

2.企画の具体的な内容

「ガザについて学び、分かち合い、祈る集い」

パレスチナの歴史、閉鎖されたガザで今起きていることを知り、平和について考え、分かち合い、祈りの場を持つ をテーマに 夙川教会の西口信幸さんをお招きし講演会と、分かち合いをしました。

3.計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや、目的)

一人でも多くの人に参加してもらい、ガザのことを知ってほしかったので、ミサ後のお知らせや、ポスターの掲示、評議会等の各委員会にも参加呼びかけをしました。

4.参加者の思いや感想

わたしたちの中に、今住んでる家に、見知らぬ人がやってきて、ここは自分のものだから、すぐに出て行ってくれとか、突然ブルドーザーで家を壊されるとか、スーパーに行って、銃で撃たれるとか散歩に外に出てドローンに追い掛け回される経験をした人はいますか？
家を追われ、故郷を追われて、40度以上の酷暑の中、テントで食べるものやミルクもなく、毎日何十人もの子どもたちが死んでいくのを、何のすべもなく見ているといった経験をした事がある人がいますか？

これは今まさにパレスチナでおきていることなのです。……

……西口さん、ありがとうございました。色々考えることが多かったです。

私も何かしら行動せねばと！

(信徒の方の感想文より抜粋)



◇ 大阪南地区 かわちブロック 布施教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月3日(日) / 聖堂 / 20名(アンケート記載15名)

8月15日(金) / 折り鶴2200羽、祈り(ミサ中奉納)

2. 企画の具体的な内容

DVD【しではら】上映会

門真市が生んだ日本総理大臣。戦前戦後日本の平和外交に尽力された。

人物像及び常に平和への熱意

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

平和憲法第九条

幣原氏がマッカーサーに平和について【案】を提出した事。

戦争は絶対にしてはいけない

4. 参加者の思いや感想

・門真市が生んだ総理大臣いたと知り【平和】への考え、情熱を感じました。

・他人事ではなく自分事として考え、行動等が問われています。

・一人一人の声は小さきものですが【希望】を保持し前に推し進める事の必要性を感じました。

※アンケートを通してまとめています。

5. 「平和『月間』」としたことについて、ご意見をお聞かせください

・信徒の協力、準備期間もありスムーズに取り組む事が出来ました。

・一過性ではなく【平和】への感謝の声に寄り添って、つなぐ事の大切さを痛切に受け止めています。



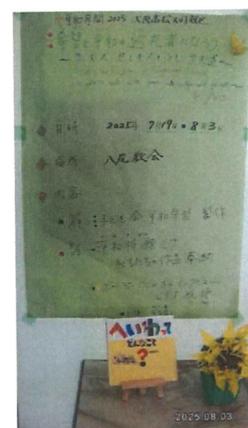
◇ 大阪南地区 かわちブロック 枚岡教会

1. 開催日/場所/参加人数
8月3日(日)9時 / 枚岡教会聖堂 / 60人
2. 企画の具体的な内容
 - ・平和祈願ミサ
 - ・イポリト・ヴィダ神父によるモザンビークの現状と支援についての講演会
「モザンビークの今、そして日本のキリスト者にできること」
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
 - ・ともすれば無関心になりがちな他の国についても関心を持つ
 - ・自分と関わりのあること以外にも想いを巡らす
4. 参加者の思いや感想
 - ・こんな良いことを誰が考えたのかと感動された方もいました



◇ 大阪南地区 かわちブロック 八尾教会

1. 開催日/場所/参加人数
8月3日(日) *子ども会は7月19日(土) / 八尾教会ホール
2. 企画の具体的な内容
 - 7/19・子ども会で「へいわってどんなこと？」浜田桂子著の読み合わせ
 - ・平和の種を探そう(ひとりひとり平和の種を付箋にかく)
 - ・祈りを込めた折り紙ひまわり製作
 - 8/3・平和祈願ミサ(日本語、韓国語、ベトナム語、ポーランド語の共同祈願)
 - 8/3・「ボートピープルのベトナム若者インタビュービデオ」の視聴
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
 - ・ベトナム青年によるベトナムから来られたボートピープルの方へのインタビュー
 - ・ベトナムの青年が主体となって平和月間の行事をすすめてもらうこと
 - ・子ども会のリーダーが毎年平和について少しずつ子どもたちに話してきた上での読み聞かせ
 - ・大人も子どもも自分の平和について表しやすい形(全員が何らかの形で参加)
4. 参加者の思いや感想
 - ・ベトナム青年も日本人もボートピープルの方々の経験を初めて聞いた
 - ・平和は「自由とつながっている。命をかけて脱出すること」をはじめで知った。
 - ・日本人に「ありがとう」と思う
 - ・これからもベトナムの人と共に祈りたい。



◇ 大阪南地区 みなとブロック 住之江教会

1. 開催日/場所/参加人数

7月13日(日) / 住之江教会聖堂内 / 33名



2. 企画の具体的な内容

タイトル 「今、動こう。私たちの子供、私たちの孫が戦争に巻き込まれないために」

講演内容 「80年間、どこにも侵略せず誰も殺さなかった日本社会。この先もずっとそんな国でありたいと願いつつ、住之江教会の皆さんと、平和の巡礼者となれる道を探します。」

3. 計画するにあたって大切にしたこと（ねらいや目的）

毎年、毎年のごとで何をどう企画すればよいか、ネタ切れ感がありましたが、松浦謙神父様のご厚意で、シナピスのビスカルド篤子さんのお話を聞かせて頂くことになり大変感謝しております。貴重な現場のお話を聞かせて頂き触発されました。

4. 参加者の思いや感想

・日曜日の説教に強盗にあった旅人と介抱をした善きサマリア人とケガ人を助けなかった祭司とレヴィ人の話がありました。損得を考えずに人を助けたエピソードにむねを打たれます。私達はまず損得を考えます。計算をするのです。しかし神様は損得抜きでまず人としての心を要求されます。話の出発点から利他の心を要求されます。人生の処し方にしてもし他の精神で接するよう求められます。不安恐れ盲従の境地に人の心が押しやられます。国家権力による巧妙な先導、誘導によって人々はゆり動かされていきます。しかし私たちはキリストの精神によって行動をする事を要求されます。まず自分のことを考える中心にする考えを改め、人中心の考えが大事であることを求められます。人の心がひへいし、多くの犠牲が要求されます。平和が力によっておびやかされ、将来の不安に人々をおとしめていきます。その中でも私たちは連携を強め助け合う心が求められます。明日を信じ、未来をよくしていく心を育てていきたいものです。アツ子さんのいつも難民に寄り添う心に感動しています。因中（*原文ママ）の人に手をさしのべ、明日の希望を打ち砕かれた人々に手を差し伸べるアツ子さんの姿にいつも感動を覚えます、これからも明日を知れぬ難民の方になおよりそわれ一人でも多くの難民の方達の力添えとされますこと願っています。

・日本は戦争しないと思い込んでいました。ブルーインパレスで大阪は熱くなってましたが「あれは戦闘機ですよ」の言葉にハッとしました。今でも基地や航空ショーで見てもお金かかてるなーと感じても実際の兵器、武器、人を殺すものとは見てませんでした。平和ボケに気づきました。

・「戦争を知らないばあば」

巡礼者にはなれないけど巻き込まれた人達のために祈りを捧げます。

・戦争は二度とあってはならない事がよくわかりました。

私は原爆被爆地の広島県の出身ですが、あの苦しさは二度と味わってはならないと思います。

・自国主義台頭で世界の未来、秩序がみだされています。自国主義から脱却し国連の組織

の再編等で有効な組織になり戦争しない世界になってほしい。

・ 沢山の活動をされていることに感銘を受けました。色々な国へ行かれて多くの人と交わる事で救われた方もいらっしゃると思われます。私も若い頃は色々な国に行ったものです。今は体にハンディがあるので出来ることは少ないですがお話をうかがって改めて何か自分にも出来る事はないか考えさせられました。またおはなしを聞かせてください。楽しみに待っています。

・ フランシスコ教皇様の遺影の前で祈っている時「私のように生きて行きなさい。」と言われてるように思いました。教皇さまは、難民の方々には特に心を痛めていました。この教皇さまの思いを私は100%受け止めていましたのにいつの間にか80%位の気持ちになっている自分にシナピスのビスカルド篤子さんの難民の方々との関わりの体験などお聞きして気づかされハッとしました。私たちはクリスチャンなので世間の思いではなく、ブレずにイエス様の後ろについていかねばと大いに反省しました。心新たに希望を持って進んで行こうとおもいます。気付かせてくださり有難うございました。
イエスさま御免なさい 難民の皆さま御免なさい 兄弟姉妹の皆さま御免なさい

・ 戦争はなぜ起こるのか何が原因で起こるのかという根本的な部分を知る機会は今までなかったので知る事が出来て良かったしとても勉強になりました。
過去と現在を比べることでどのような兆候があるかを知る事ができるので、歴史が教えるところというように現在の日本を過去から読み取ることで様々なことがわかったと思った。テーマの希望と平和の巡礼者になるためにも、自分たちに出来ることを考えながら普段から行動していこうと思いました。

◇ 大阪南地区 玉造ブロック 玉造教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月10日(日) / 聖堂 / 130名

2. 企画の具体的な内容

平和へのメッセージをカードに書いて頂き段ボールで木を形どり、カードを貼って飾り、平和の木を育てるとして多言語の方にも呼び掛けた。前日から合宿していた多言語を含む子ども会20数名が「未来の平和を作るこども達」をテーマにメッセージを発表した

8月24日すべての祈りのカード折り鶴を焼却奉納して祈りの中で全てを納めた。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

混沌としている世界情勢・平和感に疎い私たち 多言語グループにも呼びかけ8月に来日していたスペインの青年の宣教師達を交えて「平和」を考えた。「神様のもとでつながる私たち」をテーマに私たち一人ひとりが巡礼者であることを問い掛けた。

「神様のもとでつながる私たち」をテーマに私たち一人ひとりが巡礼者であることを問い掛けた。

4. 参加者の思いや感想

平和の木がクリスマスツリーみたいになり 書く人も読む人も思いが一つになっていた。



◇ 大阪南地区 みなとブロック なみはや教会



1. 開催日/場所/参加人数
8/10(日)12:15~13:30 / なみはや教会・聖堂内 / 約50名
2. 企画の具体的な内容
メインタイトル「世界の平和へ、今こそ一歩踏み出す勇気を！ 声に出して分かち合う主の平和」
⇒平和に関する各国からのショートメッセージとメッセージソングを分かち合う
⇒ともに集い、考え、祈る。そして声を出す。
○子供たちによる合唱 「手紙 拝啓 15 の君へ」
○詩の朗読(日本語+英語)「If I must die」
○中国語メッセージ
○ベトナム語メッセージと合唱
○日本語メッセージと独唱「ひとつ」
○英語メッセージソング 「We are the world」
○終わりに 「平和を求める祈り」
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
 - ・平和月間のテーマである「共に歩む」の意図を取り組み、教会に集まる様々な国の方が、世界の現状や、小教区の現在を「どう見て」「どう感じているか」そして「どう祈るか」といった「人の声」を大事にしながら、日本人だけにとどまらず、みんなで「声を出す」集いを企画しました。
 - ・各国のメッセージや歌が響きあうことで、主の平和と一致が訪れるよう、そして未来へ希望が広がるように祈りながら準備しました。
4. 平和旬間を終えて全体を通して気づいたこと、良かったこと
 - ・参加人数はミサ参加者に比べて多くはなかったものの、イベント終了後の茶話会で振り返りの時間が十分にあり、厚みのある催しになりました。
 - ・各国参加者との相互理解が深まり、歌を互いに称えあえ、望む平和に共感しました。
5. 参加者の思いや感想
 - ・なみはや教会というコミュニティの存在。その素晴らしさに改めて気づくとともに、真の平和の意味に気づく機会となりました。心が一致する、「ひとつ」になる、そんな時間を感じたからです。
 - ・子どもたちの素晴らしい合唱など、話題に尽きませんでした。
 - ・音楽は国を超えて、メッセージの力があると思う。心に響く、伝わるものがあった。
 - ・聖堂に響く様々な言語を聞いていること。これこそ「平和」の時間だった。

◇ 大阪南地区 玉造ブロック 生野教会

1. 開催日/場所/参加人数

7月13日(日) / 生野教会 / 45名

2. 企画の具体的な内容

お御堂での上映会(2本)

1)だからここで生きていく～共生のとりで大阪・生野～

2)知っていますか？ハンセン病問題

平和のメッセージカードの奉納、(のちに教会入口に掲示)

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

1)生野教会のある生野区が多文化共生の街として NHK が番組を制作し海外に発信している、生野ではあたりまえのことだが、外国人の方たちとともに平和に暮らしていることの素晴らしさと、もっと良くしていくにはどうすればよいか考えてほしかった。

2)日本カトリック司教協議会 社会司教委員会が出された「すべてのいのちを守る教会をめざして(ハンセン病問題 過ちを繰り返さないために)」を読んでハンセン病についてもっと知らなければと思い、教会の皆さんと分かちあおうと考えた。

4. 参加者の思いや感想

- ・日本語学習に悩むネパールの少年「自分が何者なのか？」それを認める場所が必要
- ・子供に日本の名前をつけた、日本の名前のほうが便利と思わせてしまう社会はどうか？
- ・心と心の関係性を築いていかなければ
- ・らい予防法が廃止、隔離政策が終了しても今なお差別と偏見があると思う。
- ・キリストは兄弟姉妹として受け入れている



◇ 岸和田地区 紀泉ブロック合同（泉南教会・紀の川教会・岬教会）

1. 開催日/場所/参加人数

8月24日(日) 9:30~12:00 / 泉南教会 /
平和祈願ミサ:約80名 講話:約50名



2. 企画の具体的な内容

テーマ「福音を生きる — 隣人に仕える心で平和をつなぐ
平和祈願ミサ司式・講話 イポリト・ヴィダ神父

構成 平和祈願ミサ説教で、第1講話
ミサ後、休憩をはさみ、第2部

第2部では、設定された三つの小テーマ「平和への道としての社交性」「偽情報と真実に対する責任」「他者のための祈りと執り成し」—は、それぞれが現代社会における平和の課題と可能性を映し出すものであり、参加者は会話や伝言ゲーム、シークレットフレンドのための祈りなどのアクティビティを通じて、奉仕、傾聴、支援の大切さを体験的に学ぶ。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

- ・ 福音の精神に根ざした平和の実践

隣人に仕える心を通して、愛に基づく平和のつながりを育む。

- ・ 具体的な行動を通じた気づきの促進

社交性・情報への責任・祈りをテーマに、奉仕・傾聴・支援の大切さを体験的に学ぶ。

- ・ 共同体としての一致と祈りの共有

教皇レオ14世の言葉「平和があなた方と共にあります」に込められた希望を分かち合い、兄弟姉妹としての絆を深める。



4. 参加者の思いや感想

- ・ 参加者からは大変好評の声が多く寄せられた。設定された三つの小テーマに沿って展開されたアクティビティは、単なる学びにとどまらず、参加者一人ひとりが「平和を築く主体」として自らの言葉や行動を見つめ直し、積極的に関わる貴重な機会となりました。

- ・ 「祈りと行動が結びついたことで、平和が身近に感じられた」「自分の言葉や態度が、誰かの心に影響を与えることに気づいた」「小さな実践が、愛と平和の種になることを体験できた」といった声が寄せられ、活動を通して得られた気づきが、日常生活への希望と励ましとなっている様子がうかがえました。

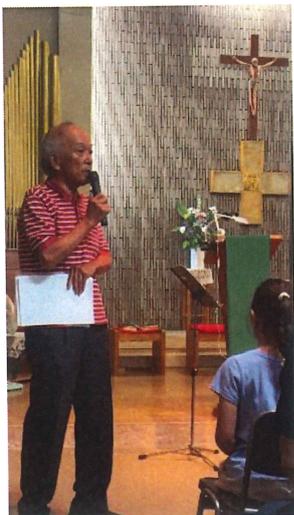
- ・ アクティビティを通じて参加意識が高まり、平和の実践が具体的な体験として心に刻まれたことは、今回の企画の大きな成果であり、今後の歩みにもつながる豊かな実りとなりました。

- ・ 平和が抽象的な理念ではなく、日々の関わりや祈りの中に息づくものであることに改めて気づくことができました。参加者の多くが、今回の取り組みを通して「自分にもできる平和のかたち」を見出し、今後の歩みに希望と確信をもって進む力を得たようです。



◇ 岸和田地区 いずみブロック 岸和田教会

1. 開催日/場所/参加人数
8月3日(日) / 岸和田教会聖堂 / 40人
2. 企画の具体的な内容
 - ・前教皇フランシスコ 2019年広島平和メッセージの動画を視聴
 - ・パレスチナ紛争の影響を受けるレバノンの現況について、当教会のレバノン人信徒の報告を聞く
 - ・平和のロザリオの祈り一連を唱える
 - ・平和を願う鐘を9回鳴らす
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
ウクライナ、パレスチナ ガサ地区での戦争に苦しんでいる人たち、子どもたちの現状を知り、1日も早く平和に暮らせるよう心をひとつにして祈る。また、初めての試みとして、近隣の方々に参加を呼びかける案内ポスターを120軒にポスティングを行う。
4. 参加者の思いや感想
 - ・戦後そして被爆80年ということもあって、今日のテーマはタイムリーで良かったです。
 - ・レバノンのお母さんの、戦争から子ども達を守ることに心を尽くして取り組んでおられるお話に心が痛みました。現実の戦時下のお話が身に沁みました。
 - ・終戦から80年と月日が流れるにつれ、戦争体験者の話を直接聞く機会がなくなってきました。紛争地域に住み、不安を抱えながらひとりで子育てする大変さを直接聞くことが出来たのは、とても貴重な体験でした。
 - ・参加者の皆さんが、心を合わせて平和を願う姿に感動しました。



◇ 岸和田地区 いずみブロック 浜寺教会

1. 開催日/場所/参加人数

7月27日(日) / 浜寺教会 聖堂 / 40人(内ベトナム人9人)



2. 企画の具体的な内容

「パレスチナ問題」勉強会 ～ ガザについてゼロから学び分かち合います ～

初めに平和についてお祈りをした後、前半35分は何故パレスチナ問題が生じたのかやガザ地区の現状などについてYoutubeやパワーポイント資料をプロジェクターに投影して説明しました。次いで20分間、5グループ(各5～6人、内1グループはベトナム信徒のグループ)に分かれて勉強したことについて分かち合いを行いました。

最後にも平和についてのお祈りをした後、村田神父様の派遣の祝福をいただいて終わりました。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

パレスチナ問題の説明はインターネット上に多くの良いコンテンツがあり、種々検討した結果、約14分のYoutube動画を視聴することとしました。

<https://www.youtube.com/watch?v=BaoB7kMpmME>

ガザについては、その大きさを大阪南部の地図と重ねて説明したり、亡くなった方々の人口比率を東日本大震災やベトナム戦争、ホロコーストと比較したりすることで信徒の皆さんに起こっていることを実感していただけるように工夫しました。また破壊された市街地の写真や統計的な数字に加え、



シナピスの西口氏の報告を引用させていただき、そこに我々と同じ日常の生活があったこと、そして痩せ細って泣く子供に何もしてあげられない親たちのやるせない思いを伝えることで限られた時間でも惨状を心に刻んでいただけたらと思います。資料を作成しました。YouTubeはベトナム語テロップで、ベトナム語資料もAIで準備。

4. 参加者の思いや感想

- ・援助物資がガザまで届かない現状がとても苦しい。何とか出来ないものか。シナピスなどを通じて援助をしていくことも有効
- ・頭上でドーンと音がしても花火大会。日本は何と幸せな社会なんだろうと。
- ・私の祈りと犠牲と献金が、世界の平和に繋がるか？ 積もれば形になり、届くと信じるしかない。
- ・国の代表達が、公の場で平和のために働きかけて欲しい。選挙も大事な事だと思います。
- ・それぞれが話題に出して、思い出す、心に留める。平和に感謝する時を持てば、大きな広がりになる。
- ・この勉強会で問題に向き合い、あらためて悲しい気持ちになった。思いを深める機会となった。
- ・宗教だけでなく、国連も含め国どうしの駆け引きがある事を知り、残念に思った。
- ・戦争になると平和な時は考えられない価値観を押し付けられる。恐ろしさを感じた。
- ・戦争では、結局、今も昔もつらい思いをするのは、弱者、子供、女性ですね。
- ・大きな問題の前で無力さを感じる。例えば署名を集めたとしてもどう伝えれば良いのか。
- ・バチカンがもっと世界平和の先導を出来ないものか。
- ・私になにができるか、私たちにできることは何かを考えなければ。明日の平和は今に根ざしている。



◇ 岸和田地区 いずみブロック 和泉教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月10日(日) / 和泉教会聖堂 / 約30名

2. 企画の具体的な内容

平和祈願ミサ、コーラスグループによる平和の祈り、講演会
子どもたちには別メニューが準備された。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

あまりにもわからないことが多すぎるガザについて学ぶこと。
講演会までに、ガザに関する掲示を行い、関心を高める。

4. 参加者の思いや感想

・イスラエルとガザの紛争はテレビで気にはかけていました。

今回の講演によって、疑問がたくさん出てきました。

なぜイスラエルはガザを攻撃するのだろう。

イスラエルの人びとの本音を聞きたいです。

また、ガザの人びとはイスラエルの人々と仲良くできないのだろうか？

なぜフランス、イギリス、アメリカ、等々はイスラエルを援助するのだろう。

この紛争の発端である拉致されたイスラエルの人びと、
きっと200人位いたと思うのですがその人達は
どうなってしまったのでしょうか。

などわからないことが沢山出てきました。

私達に何ができるのでしょうか。

きっとこの紛争について忘れないこと。

また、ガザの人達のために祈る事だとも思います。

・紛争下で家を追われて十分な食事もとれずやつれた子供達の写真をみると胸が痛みました。

あらゆる権利を奪われた人たちの話を聞きながら、なぜか罪の意識を感じました。

追うべき責任を放棄してただただ傍観しているだけのようで…。

無関心であってはならないと強く感じました。

・今日のスライドからは、泣く人々しか観えてこない。

ともに喜び、共に泣く事のできる、真の平和が生まれますように願い祈ります。

・ガザが侵攻を受けていること、ハマスという集団がいることなどは知っていたけれど、問題がそのずっと前から起きていたことは知らなかった。

知らなければ、支援を必要としている人に手をさしのべることもできない。

やはり、まず第一に「知る」ということが大切なのだと感じた。



◇ 岸和田地区 りんくうブロック 貝塚教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月10日(日) / 貝塚教会聖堂 / 34名

2. 企画の具体的な内容

2014年8月25日 94才で亡くなられたインドネシア最後の元日本兵の映画を見ました

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

非常に良かった
動画を見て信仰の思いを感じました

4. 参加者の思いや感想

- ・インドネシアと日本との親近感が伝わり日本愛を感じた
- ・日本に還らず最後迄インドネシアに止まり神に召されて天国へ旅立った



◇ 岸和田地区 りんくうブロック 熊取教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月10日(日) / 熊取教会聖堂 / 35名

2. 企画の具体的な内容

- ① 平和祈願ミサ(デンニ神父司式)
- ② お話し 平和へのメッセージ
～気がつけば平和にそむいたキリスト者たち～
川崎洋一さん(熊取教会信徒)
- ③ 共同体でささげるロザリオの祈り

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

- ・一方的に何かを聞くだけでなく、共同体全員参加できる企画。
- ・新たな気づきがある内容。

4. 参加者の思いや感想



- ・平和の実現のために、心一つにミサで祈れたことは良かった。
- ・今まで考えたことがない視点からの話が聞けてよかった。
- ・聞いた内容は、これからの平和のために大切なことだと思えた。
- ・みんなで祈ったロザリオの祈りは、私たちの共同体が平和の使徒になるための大きな力になると感じた。

◇ 岸和田地区 りんくうブロック 泉佐野教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月10日(日) / 泉佐野教会 / 約80人

2. 企画の具体的な内容

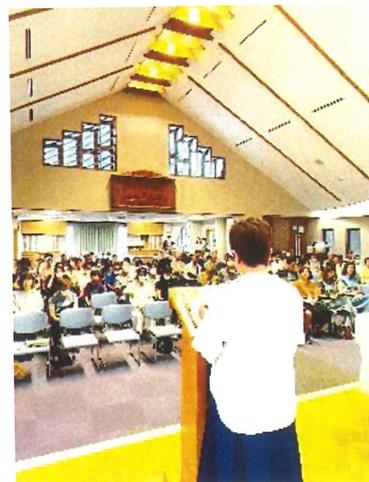
- ・ミサの「共同祈願」の代わりに平和旬間のための時間をもうける
- ・故フランススコ前教皇による「2025年度世界平和の日」メッセージのなかから、貴重かつ大切であると思われる部分を朗読した。
- ・まず聖年の起源、不正義と不平等の現実のための3つのアクション、そしてこころの武装を解除して生活のなかで出来ることについて。
- ・静寂のなかでその言葉に思いをよせ、心をひとつにして「キリストの平和」を歌う。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

生活のなかで忘れがちな真の平和のために1人1人が出来ることを思い出し、改めていま、私たちが置かれている状況に感謝しつつ、世界のなかで苦しんでいる方々のために出来ることを考えながら、静かに祈る時間をもつこと。

4. 参加者の思いや感想

- ・ゆっくりと教皇さまの言葉の意味を考えて生活を振りかえる機会になった。
- ・自分自身がいかに平和で豊かな日常を過ごしているかを思い、感謝しつつ祈った。
- ・世界中の紛争や戦争で苦しんでいる人びとのために祈ることの大切さを思った。
- ・いつものミサとは違う雰囲気心が落ち着く時間を経験することができた。
- ・「キリストの平和」の歌詞を改めて味わった。



◇ 和歌山地区 紀北ブロック 和歌山紀北教会



1. 開催日/場所/参加人数

8月10日(日) / 和歌山紀北教会信徒会館ホール /
10時~平和祈願ミサ(150名参加) 11時30分~13時 平和の集い(41名参加)

2. 企画の具体的な内容

テーマ「つなごう 平和への思い~過去の戦争 今の戦争 その始まりは…話そう 大切なこと」

内容:1. 祈り(ヨハネ・パウロ 2世広島平和アピールでの平和の祈り)

2. 朗読(原爆体験した母親の手記より)

3. 分かち合い

4. DVD『戦争のつくりかた』(NoddIN)視聴

5. まとめ

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

・戦後80年を迎え、改めて過去の戦争(日本におけるかつての戦争)の歴史を振り返る。戦争体験者が集まることが難しい今、かつて聴いた戦争の悲惨さや戦争に向かった経緯なども学びながら、この80年間、日本国憲法(第9条)のおかげで、戦争で人を殺し・殺されることがなかった日本。ただ沖縄は基地があることで憲法が適応されない辛い現実があるが、「戦後80年司教団メッセージ」も心に留めたい。



・世界各地では、今も戦争が続いている。その実態を元イスラエル兵ダニー・ネフセタイ氏の非戦論から学ぶ。絵本『どうして戦争しちゃいけないの?』から学ぶ。

・今の戦争で、核兵器使用も辞さない動きがある。国内外の動きを敏感に感じて、かつてのように戦争に向かわないようにするために私たちに何ができるかを考え、分かち合う機会としたい。

4. 参加者の思いや感想

- ・戦争体験の参加者がいなくなった今、体験を聞いた世代が次の世代に伝え、繋いでいきたい。
- ・分かち合いの中で、「平和の戦争ってあると思うか?」との質問があった。キリスト教の正戦論・聖戦・平和主義が思い浮かんだが、平和のための戦いってあるのだろうか?と思った。
- ・「この世界から戦争がなくなることはない」という意見があったが、諦めることなく平和を希求したい。
- ・戦争に向かう心には、おごりや欲がある(国を強くしたい。領土を広げたい等)と思う。他国の動きに対して、恐怖や焦りも生じることがある。流言飛語を信じてしまうことも。
- ・「変わらない正義」を探る朝ドラの主人公。前フランシスコ教皇は、正義とは、苦しんでいる人を助け、痛みのある人・悲しむ人に寄り添うことだと言われたことに心を留めて私たちが、宗教を越え、国境を越え、あらゆる壁を越えて行動していくことだと思う。現実の厳しさはあるが、たとえ理想論だと言われてもこつこつと平和の思いを紡ぎたい。
- ・武器ではなく対話で!ガンジーのように非暴力による平和の実現が出来れば良い。
- ・家庭で、教会で、小さな平和を実現しながら確実に広げていくことが戦争に向かう心に対峙することではないかと思う。教育が大切!学校で、家庭で、コミュニティで。
- ・これから、今後に向けて、老若男女がともに平和について祈り、考え、ともに学び、典礼(祈り)的にも深めながら、そんな機会を持ち続けたい。



◇ 和歌山地区 紀南ブロック 紀伊田辺教会

1. 開催日/場所/参加人数

- ① 平和祈願ミサ 8月15日(金) 19:00～
- ② 沖縄戦パネル展示 6月1日(日)～9月6日(土)
沖縄戦終結の日 9月7日(日) まで聖堂内一角に展示
- ③ Amnesty Japan 田辺よんろくグループを迎えての社会問題勉強会
7月20日(日) 11:00～12:00 教会敷地内ログハウスにて 参加人数13名
- ④ 紀南ブロック教会間(新宮、串本、紀伊田辺、御坊、龍神)で復活の光の蠟燭を
巡回させ共にミサに与る。

2. 企画の具体的な内容

- ② 沖縄での激しい地上戦と多くの犠牲者を出した記録パネルを展示。二度と戦争を繰り返さず、後世への平和を継承していくことを目的に沖縄戦終結の日(9/7)前日まで展示を続ける。
- ③ 最初にその団体概要、沿革、田辺よんろくグループの立ち上がり経緯などを教えていただき、思想や信条、政治的意見、宗教、人種、性別などの違いだけで弾圧や投獄、拷問などの暴力を受け、最悪の場合殺害されてしまう人達がいる現実に対してアムネスティがアプローチしていることや、田辺よんろくグループの活動を紹介していただいた。その中でも「ライティングマラソン」は、世界人権デ一周辺に、該当政府や当局に対しては、人権侵害の改善を求める手紙を、その被害者に対しては、一緒に闘っていることを伝える応援メッセージを送っている。



3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

「希望と平和の巡礼者となろう」～苦しむ人、悲しむ人とともに歩む道～

上記スローガンを踏まえ、「どこかで誰かが抑圧され、差別されているのをほうっておけずに痛みや苦しみを共感共有することから解放に向けて行動を起こす」という聖書で語られる社会正義を視野に入れた平和のために、教会の内外ともに発信していける内容となるよう企画した。



4. 参加者の思いや感想

今回は数年ぶりに外部の市民グループ(アムネスティ)を招いての勉強会となった。

アムネスティ様においても教会同様、高齢化と人員減少に伴い年々活動がややマンネリ化していたところでの今回の勉強会は久々に初心に戻って緊張感をもって取り組めたと言っていた。これを機会にカトリック教会とアムネスティ様の相互理解と平和に向けた取り組みを共有していきたい。

◇ 和歌山地区 紀南ブロック 御坊教会

1. 開催日/場所/参加人数
8月15日(金) / 御坊教会 / 7名
2. 企画の具体的な内容
紀南ブロックの5つの小教区では、7月27日から「平和のローソク」と名付けた大きなローソクを各小教区でミサの後、1週間留め置き、次の小教区に回していくという形式で平和を祈念する手助けとした。
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
「平和」への想い、希求。
4. 参加者の思いや感想
「平和のローソク」のリレーは皆の想いが目に見える形になっていて良かった。



◇ 和歌山地区 紀南ブロック 新宮教会

1. 開催日/場所/参加人数
紀南ブロックの行事として
7月6日(日)~8月15日(金)
「平和のローソク」新宮教会 出発
2. 企画の具体的な内容
「平和のローソク」が紀南の各教会を一週間ずつかけてめぐる。
火の灯ったローソクを新宮教会は、1人1人手渡しまわしながら祈る
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
1人1人が「平和のローソク」を手にするによって、世界の人々に関心を持ち、平和を祈る。
4. 参加者の思いや感想
戦争をはじめとするどのような紛争であれ、飢餓であれ、搾取であれ、虐待であれ、いじめであれ、差別であれ、無関心であれ、孤独であれ、苦しみ、悲しみ、恐怖の中にある人々の痛みを思い、その人たちへの主の平和を「平和のローソク」を手にするによって願うことができた。小さな一歩として。



◇ 香川地区 東讃ブロック 番町教会

1. 開催日/場所/参加人数
番町カトリック教会/50名
2. 企画の具体的な内容
平和を祈るコンサート
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
心をひとつにして祈りの雰囲気
4. 参加者の思いや感想
コンサートの形であっても祈りの心を大切に行われた。
朗読など涙が出るほど感動があった。内容も平和を強く望む感じが豊かにあった。



◇ 香川地区 東讃ブロック 三本松教会

1. 開催日/場所/参加人数
8月15日(金) / 三本松教会 / 10名
2. 企画の具体的な内容
戦後80年を経て戦争中の体験を知らない世代がほとんどとなり、戦中、戦後の生活体験を聞きそれぞれの人々に当時を思い起こしていただく。
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
まず、西川助祭作成の資料「太平洋戦争への道」で当時の日本と国際問題を理解してもらい
当教会信者の最高齢者中谷道子氏に当時の体験談を語っていただく。
そこから平和を維持していくには何が大切なのかを知っていただく。
4. 参加者の思いや感想
国民を巻き添えにしてゆく戦争という手段をいかに平和を維持していくかは、一人ひとりの意識の大切さを知った。また、実体験を話して下さったおかげで戦中戦後の生活の大変さを深く知ることができたのは意義深かったと思います。
5. 「平和『月間』」としたことについてご意見をお聞かせください
この月間中、教会の中で平和について、多くの話し合い、わかち合いがあった事は良い事だと思いました。

◇ 香川地区 西讃ブロック 伊予三島教会

1. 開催日/場所/参加人数
8月10日(日) / 伊予三島教会 / 15名
2. 企画の具体的な内容
世界平和を祈念して信者が一堂に会してともに祈ること。
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
なるべく多くの信者が参加すること。
4. 参加者の思いや感想
日本では戦後80年を迎え平和慣れして、戦争の悲惨さがよくわからない世代の人が増えているが、世界では沢山の人が戦争に巻き込まれ悲惨な現状にある。そのことを再認識して平和の実現に向けてできることをすることが大切だと思う。

8月の祈り ー戦後80年にあたってー

2019年に広島平和公園での教皇フランシスコの
ことばを思い起こしながら祈ります。

神に向かい、すべての善意の人に向かい、
1つの願いとして、原爆と核実験とあらゆる紛争のすべての犠牲者の名によって、
声を合わせて叫びましょう。戦争はもういらぬ！ 兵器の轟音はもういらぬ！
こんな苦しみはもういらぬ！ と。

わたしたちの時代に、わたしたちのいるこの世界に、平和が来ますように。

神よ、あなたは約束してくださいました。
『いつくしみとまことは出会い、正義と平和は
口づけし、まことは地から萌えいで、
正義は天から注がれます』(詩編85・11-12)。
主よ、急いで来てください。
破壊があふれた場所に、今とは違う歴史を描き
実現する希望があふれますように。
平和の君である主よ、来てください。
わたしたちをあなたの平和の道具、
あなたの平和を響かせるものとしてください！



* シナピスニュース 2025年8月の祈り

◇ 徳島地区 徳島地区合同

1. 開催日/場所/参加人数
8月12日(火)～13日(水) /
徳島教会 / 55名



2. 企画の具体的な内容
★8/12(火)は、講演会ゲストのSr.マリア・ランも一緒にこの日の参加者22名(ベトナム青年12名含む)が、徳島の伝統芸能“阿波踊り”を体験し、寝食を共にし交流を深めた。

★8/13(水)は、朝の祈りでスタートし、朝食の後10時から平和講演会を開催。ビンセンシオ・ア・パウロ愛徳姉妹会のSr.マリア・ランには、ポートピープルとなり、生死の境をくぐり抜けてベトナムを脱出した時の体験や、『あかつきの村』での奉仕活動、愛徳姉妹会に入会してからの難民支援活動など苦しむ人、悲しむ人と共に歩んで来られた半生をお話頂いた。また、ウクライナ人のソコロバ・オレナさんには、故郷ドンバス地方ドネツク州で2014年から始まった紛争によって、家族や友と離散を余儀なくされた体験談をお話頂いた。

午後からは、講演会の内容を基に平和について「霊的分ち合い」を5グループに分かれて行った。

その後の平和祈願ミサは、酒井補佐司教様に司式頂き、分ち合いの内容を共同祈願としてお捧げした。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
今年は、ベトナム青年をはじめ、外国の方たちも一緒に平和について考え、祈る機会としたかった。また、命の重さ、尊さを難民となった方々の体験談をお聞きすることによって知り、様々な悲しみや不安を抱えて生きる人々を思いやり、文化や言葉の違いを超えて、祈りの大切さや祈りの力に信頼し、共に手をつなぎ希望へと歩んで行く一歩となれるようにしたい。

4. 参加者の思いや感想

*ベトナム青年の感想

先日の教会でのつどいでは、皆が特別な一日を過ごしました。Sr.マリアランは、ご自身の人生の物語を語ってくれました。日本に滞在中のベトナム人研修生や留学生が直面している困難についても語り、それらを克服するためのアドバイスと導きを与えてくれました。



ソコロバさん講演

休憩後、13:00からは、小グループに分かれて、なごやかな語り合いが続きました。皆が悲しみを分かち合い、耳を傾け、戦争の深刻な影響や人生の困難に共感することができました。

最後に、酒井補佐司教様によって平和を祈るミサを捧げました。共通の願いは、戦争のない、すべての人が愛と平和の中で生きられる世界になることです。

二日間は、あっという間に過ぎ去りましたが、分ち合い、希望、人間の尊厳という響きは、きっと長く参加者の心に残るでしょう。

*日本人青年の感想

シスター・マリア・ランとソコロバ・オレナさんから、ご自身の経験と今のお気持ちを聞かせていただきました。当事者にしかわからないことがあると思いますが、私たちと分かち合おうとしてくださったお二人に深く敬意と感謝を表します。

2日間の最後のミサに向けて、霊における会話を通して共同祈願をつくることとなりました。私が参加したチームでは、職場や家族、それぞれの居場所や役割を通して考える平和についてお互いに聞くことができました。「平和」と自分の日常を接続させようと試みることに難しさを感じるとともに、だからこそ誠実に向き合わなければならないという気持ちを新たにしました。

1日目の夜に参加した阿波踊りでは、笑顔の人が行き交い踊る景色が続くようにとも思いました。最後に、今回の行事に携わってくださったすべての方に感謝を申し上げます。



シスター・マリア・ラン講演



阿波踊りの練習

◇高知地区 中島町教会

1. 開催日/場所/参加人数

7月27日(日) / 中島町教会 /
ミサ参加48名・上映会参加19名



2. 企画の具体的な内容

- ・平和祈願ミサ 聖体拝領後にテゼの祈りを捧げる
(マザーテレサの言葉より朗読) 平和の祈りカードを奉納
- ・上映会 NHK こころの時代 古巣馨神父様
「長崎の祈り 水がめを運ぶ人々に導かれて」

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

昨年から、平和祈願ミサの準備として、事前に平和の祈りカードへの記入を信徒に呼びかけ、今年も引き続き実施した。昨年の感想に「平和の祈りのいくつかを共有できればよかった」ということがあり、今回は共同祈願に織り込んだ。上映会では、古巣神父様のメッセージが平和について考える機会となり、信徒同士の共有につながることを望まれた。

4. 参加者の思いや感想

- ・平和の祈りカードを事前に集めることは、来年も続けてほしい。
 - ・聖年巡礼訪問された方や、初めてミサに参加された方も一緒に祈ることが出来てよかった。
 - ・お説教の中で、神様との関係において「執拗に頼む」ことの大切さが語られた。平和への願いも、あきらめず祈り続けていくことが求められていると感じた。
- <上映会後の感想(抜粋)>
- ・若い少女の精一杯の「神父さま、お父さんお母さんをゆるしてあげて」、精神の病をもつ60代の男性の「唯一の夢は神の子と言われたい」、「神父さま、私には都合がありません」古巣神父様はこの二人の「ことば」に痛悔させられ、神の業を見せつけられ、それは生命の水となった。正しく、2人は「水瓶を運ぶ人」であった。静かに語られる古巣神父様の心の内に今も忘れまじと誓う熱い思いが感じられ、私の心を打ちました。二人が残した「ことば」をこれから私が生きる霊的道標にしたいと思う。
 - ・水がめの水は信仰そのもの。信仰は完全に信頼できる神を土台とした堅固で頼みになるものを信頼するという意味ではないでしょうか、水がめの水は神への信頼そのもの。
 - ・どんな小さな人でも神の愛を伝え平和をもたらし事ができると感じた。
 - ・聖書のことば“神の子”のお話は、なんの疑問もいれかずみんな“神の子”だと思っていた私にとって“神の子”を生ききられたことに心をうたれた。「相手に譲る」行為の大切さを思い起こさせてくれた。
 - ・母親の生きる姿に信仰の強さがあり、それを見た子供のこれからの生き方に道を示されたのではないかと感じた。
 - ・平和の原点は赦しだと思った。
 - ・日々の小さな事の積み重ねが大切で、自分の都合に囚われず謙遜の心で生きる事が平和の証。



◇高知地区 江ノ口教会



1. 開催日/場所/参加人数
8月3日(日)9:30~12:00 / 江ノ口教会聖堂 / 約20名
2. 企画の具体的な内容
 - ・「戦争と平和を考える資料展」6/28(土)~7/8(火) (自由民権記念館)を見学
 - ・平和祈願ミサ:各祈願は、「平和を願って」を使用。共同祈願も独自の物を使用し、マザーテレの平和の祈りを皆で唱えた。奉献文は、ゆるしの奉献文 二【人類の和解】を使用。
 - ・霊における会話の形での分かち合い:ミサ後、「戦争と平和を考える資料展」を見学した感想を基に行う。3グループ(各6名ぐらい)に分かれ、グループごとにファシリテーターをおき、次第に従って順番に行っていき、最後にそれぞれのグループでまとめを発表した。その後、各グループが発表したものを大まかに書いたものを印刷して、皆が読めるようにした。
3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)
今回は、初めてミサだけでなく、他の事も行いました。強いて言えば、特に他の団体が開催している物・活動を見に行くためにそこに足を運ぶこと。そして同じ物を見てそこから感じたものを共有すること。共有するときに祈りのうちにそれを行うことを考えました。
4. 参加者の思いや感想
 - ・自由な場での話し合いはよかった。全体では、対話が難しい。
 - ・ミサ後も対話をする機会が少ないので、分かち合いで話し合いができてよい。
 - ・普段、真剣に物事を考える機会がないが、皆の意見を聞けてためになった。
 - ・展示会に行ったり、皆さんの話を聞いたりして、生き残った方の辛さがよく分かった。(戦争を体験した方たちの)信仰深さの裏打ちを知ることができた。
 - ・私たちのグループでは、平和について自分の言葉(本心)が出ました。
 - ・現在までの長い歴史の中で、戦争が無かった時代は無く、そのことを考えるとむなしくなり、人間は戦うという本性を持っているのではないかと思う。
 - ・今回のように話し手の話を聞いて、その後15秒祈るという体験を今まで黙想会で体験したのみです。
 - ・話を聞いて、自分の考えと感情は動いています。その状態で祈りに入るとはとても困難です。霊における会話の体験を重ねたら、可能になるのではないかと思うとともに、実際できるようになることを求めています。
 - ・霊についても、祈りについてももっと深く体験したいものです。
 - ・話し合いの方法は、理解でき、全員が出来る内容でした。
 - ・何を話し合うのか、指針の理解が困難でした。特に、「霊における会話」の理解困難で、グループワークの展開を妨げたように思いました。事前に、霊における会話などの、説明がもっと欲しかったです。

- ・グループのまとめの発表。方向がバラバラで、『平和』への思いが深められたようには、思われませんでした。
- ・グループワークをして良かった点は、他の信者の方々の思いを聞く機会がなかったので、貴重な場になりました。
- ・資料展の期間が思った以上に短かったこと、資料展終了から平和ミサへの期間が開いたこと、また、資料展を見に行かないで分かち合いに参加した方々があったこと。ファシリテーターの重圧がかなりあったこと等があり、次回からの取り組みに課題を残したところもあるように思われます。

◇高知地区 中村教会

1. 開催日/場所/参加人数
8月17日/カトリック中村教会/10人
2. 企画の具体的な内容
平和祈願ミサ
ミサ後 平和についての分かち合い
3. 計画するにあたって大切にしたこと（ねらいや目的）
平和のために祈る。
平和について考え、平和のために、できる事を考える。
4. 参加者の思いや感想
 - ・報道などから、世界のあちこちで、戦争、紛争があることをきいているが、本当の苦しみ、悲しみはわからない事が多い。
 - ・茶道の裏千家の千玄室さんが8月14日亡くなられたが、平和を訴えている方もたくさんおられ、耳を傾けることも大事と思う。
 - ・『長崎 閃光の影で』という映画は、平和についても、考えさせられる素晴らしい映画だったが、見る人がすくなく、人々は関心がないことが残念に思う。
 - ・これからも、平和について、考え、知ることが大事だとおもう。



◇愛媛地区 東予ブロック 今治教会

1. 開催日/場所/参加人数

- 7月6日(日) から折り鶴と祈りのメッセージ作成 /
今治教会各家庭 / 約100人
8月3日(日) 平和祈願ミサ / 今治教会 / 約100人
8月3日(日) ミサ後 DVD「あなたに伝えたい 今治市の空襲と戦災」を視聴 /
今治教会 / 約20人
8月6日(水) 「18回戦災死没者追悼献花と平和の鐘を鳴らす式典」に参加 /
南光坊 / 5名(カトリック今治教会信者の参加者)

2. 企画の具体的な内容

- ・ 平和月間に入り、折り鶴を折り始めました。折り紙に平和への祈りを書き、鶴を折りました。7月6日の英語ミサの後には、フィリピンの兄弟姉妹とともに折り鶴を折りました。初めて鶴を折る兄弟姉妹も多く、折り方を教え合いながら折り上げました。母国語で祈りも書きました。ベトナムの兄弟姉妹もたくさんの折り鶴や祈りのメッセージを作りました。家庭に折り紙を持ち帰り、一枚一枚に祈りを記した折り鶴を沢山捧げた信徒もいました。写真にあるように多くの祈りを込めた折り鶴を捧げることができました。折り鶴とともに祈りのメッセージも奉納しました。「平和の実現に尽くし祈る全世界の人々を励ましてください。・・・」「紛争地や飢餓地の子どもたちに食料と教育と平和を・・・」等の祈りを捧げました。
- ・ 8月3日のミサ後、DVD「あなたに伝えたい 今治市の空襲と戦災」を視聴しました。このDVDは市民団体「今治市の戦災を記録する会」会長の新居田大作さん(前カトリック今治教会宣教司牧評議会議長)が中心となって作製したものです。1945年の空襲の様子や戦災にあわれた方々の声を視聴しました。
- ・ 8月6日には、「18回戦災死没者追悼献花と平和の鐘を鳴らす式典」に、神父様と信徒有志が参加しました。献花をし、参加者と共に祈りを捧げました。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

- ・ 平和について考え直すこと
- ・ 平和への祈りを自分の言葉ですること
- ・ 戦争について記憶を掘り起こし、自分のすべきことを考えること
- ・ 一人ひとりの平和への祈りを集め、ミサにおいて捧げること

4. 参加者の思いや感想

- ・ 自分のことばで、祈りをするのができてよかった。
- ・ 祈りを込めたたくさんの折り鶴をミサにおいて奉納することができてよかった。
- ・ DVDを視聴し、惨禍を伝える方々の声を聞かせていただき、平和への祈りを新たにすることができてよかった。



奉納された折り鶴と祈りのメッセージ(8/3)



DVD「今治市の空襲と戦災」の上映会(8/3)



今治戦災の日式典に参加(8/6)

◇愛媛地区 中予ブロック 松山・道後教会合同

1. 開催日/場所/参加人数

8月3日(日) / 松山教会 / 約60名

2. 企画の具体的な内容

毎年、行われるカトリック平和旬間の始まりや意味を改めて考え、私たち一人ひとりがそして共同体としてともに歩む行動ができるための行事とする。

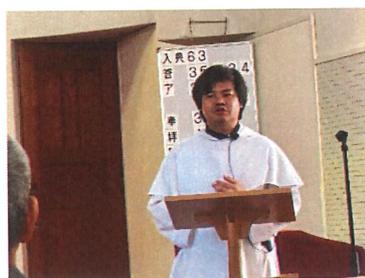
日本カトリック司教団の戦後80年メッセージの朗読とその解説、
2022年から松山教会が取り組んでいるミャンマー支援についての現状報告。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

「ともに歩む」「隣人」という抽象的言葉に対してより具体的にイメージし、行動につなげていけることを目指した。

4. 参加者の思いや感想

- ・「誰が」私たちの「隣人」であるか、自覚することが大切だと思う。
- ・自分たちに見えている世界的な戦争や紛争の事実だけでなく、そこに生きている人々の暮らしや将来について寄り添うとは、具体的に何ができるのか改めて日々、考える事が重要だと思う。また、自分たちの身近におられる苦しんでいる人、生きづらさを持っている人に寄り添う教会でありたいと思う。
- ・ミャンマーへの支援については、地震で被害を受けた人々、そして何年も続く内戦で傷つき、避難している人たちにこれからも私たちのできる支援を続けていきたいと思う。



◇愛媛地区 南予ブロック 八幡浜教会

1. 開催日/場所/参加人数

8月15日(金) / 八幡浜教会 / 12名

夕方からのミサと花火観覧の予定を参加者の希望により変更し、13:00からのミサと分かち合いとした。

2. 企画の具体的な内容

8月15日(金) 13:00から日本人5人、フィリピン人5人、ベトナム人1名のミサが開催され、日本語とベトナム語、英語による平和祈願を行いました。

ミサ後に、信者の持ち寄りの食事で分かち合いを行いました。

3. 計画するにあたって大切にしたこと(ねらいや目的)

当教会は、ベトナム人、フィリピン人を含む小さな共同体です。今年は、ベトナム人技能実習生の参加が少なく、年によって中心となる層が異なります。仕事や病気など外国人の方々が必要としていることに微力ながらも寄り添える共同体でありたいと思っています。

4. 参加者の思いや感想

- ・当教会所属ではありませんが、当教会の宣教エリアに住み、久しぶりに母子で来会され、ご家族の近況を報告されました。
- ・公務員の仕事を予めお休みにして、平和祈願日を大切にしました。
- ・原爆の日をそれぞれ故郷で過ごし、新たな日々を共同体を通して平和のために働く心を新たにしました。

